九僧塚古墳発掘調査報告書

例　言

1. 本書は平成 26（2014）年度～平成 30（2018）年度に河合町教育委員会が国庫補助金・県費補助金を受けて実施した九僧塚古墳第2次～第6次発掘調査の報告書である。
2. 第 2 次調査は平成 27 年 3 月 11 日に開始し、平成 27 年 3 月 27 日に終了した。実働日数は 12 日である。
   第 3 次調査は平成 28 年 3 月 7 日に開始し、平成 28 年 3 月 29 日に終了した。実働日数 15 日である。
   第 4 次調査は平成 29 年 2 月 27 日に開始し、平成 29 年 3 月 23 日に終了した。実働日数 19 日である。
   第 5 次調査は平成 30 年 2 月 26 日に開始し、平成 30 年 3 月 28 日に終了した。実働日数 13 日である。
   第 6 次調査は平成 31 年 2 月 26 日に開始し、平成 31 年 3 月 23 日に終了した。実働日数 13 日である。

3. 調査組織は次のとおりである。
   調 査 主 体　河合町教育委員会
   調査担当者　河合町教育委員会事務局　教育部生涯学習課　吉村公男
   調査事務局　河合町教育委員会事務局　教育部生涯学習課　生涯学習係（文化財担当）
   教育長・竹林信也
   教育部長・井筒匠（平成 26 ～ 30 年度）、上村欣也（平成 31 年度～）
   教育次長・上村欣也（平成 29 ～ 30 年度）
   課長・上村欣也（平成 26 ～ 29 年度）、吉村公男（平成 30 年度～）
   課長補佐・田中真二（平成 26 ～ 27 年度）、吉村公男（平成 26 ～ 29 年度）
   係長・山口登美子（平成 26 ～ 27 年度）
   調整員・山口登美子（平成 28 年度）、木戸正人（平成 29 年度～）
   主査・松本良一（平成 26 年度）、木戸正人（平成 26 ～ 28 年度）
   主事・小西壮大（平成 26 年度～）、吉松杏（平成 26 ～ 28 年度）、日浦早紀（平成 29 年度～）

4. 第 2 次調査の発掘作業は株式会社アートに委託した。第 3 次・第 5 次調査は株式会社島田組、第 4 次・第 6 次調査は安西工業株式会社に委託した。
   地形測量、基準点観測及び航空写真撮影は株式会社アクセスに委託した。
   遺物整理、図面整理及び報告書作成作業は株式会社地域文化財研究所に委託した。
5. 遺構写真は吉村が撮影した。遺物写真は株式会社地域文化財研究所に委託した。
6. 本書を作成するにあたり下記の諸機関並びに諸氏のご指導・ご協力いただいた。ここに記して謝意を表する。
   奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、奈良県内市町村埋蔵文化財担当者連絡協議会、河合町文化財保護審議会、松本ナラヲ、奥山正春、中村喬、米山英、中井清
   （敬称略、順不同）
7. 図2は国土地理院発行の 1：25,000 地形図「信貴山」（平成 13 年 7 月 1 日発行）及び「大和高田」（平成 14 年 4 月 1 日発行）をもとに作成した。図 3 は河合町発行の1:2,500 河合町全図 1·3（平成 16 年 3 月　修正版）をもとに作成した。
8. 土層の土色は、『新版標準土色帖 22 版』に拠った。
9. 発掘調査により出土した遺物、及び図面・写真等の記録類の全ては河合町教育委員会で保管している。
10. 本書の執筆・編集は吉村、江崎周二郎（株式会社　地域文化財研究所）が行った。

本文目次

1．位置と環境……1
2．調査の経過……2
3．遺構 ……5
4．遺物 ……13
5．まとめ ……19

挿図目次

図1　奈良県における河合町の位置……1
図2　九僧塚古墳周辺の遺跡分布図……1
図3　史跡大塚山古墳群　史跡指定範囲……2
図4　九僧塚古墳発掘調査　トレンチ配置図……4
図5　第2次調査トレンチ平面図及び土層断面図……5
図6　第3次調査トレンチ平面図及び土層断面図……6
図7　第4次調査トレンチ平面図及び土層断面図（1）……7
図8　第4次調査トレンチ平面図及び土層断面図（2）……8
図9　第5次調査トレンチ平面図及び土層断面図（1）……9
図10 第5次調査トレンチ平面図及び土層断面図（2）……10
図11 第6次調査トレンチ平面図及び土層断面図（1）……11
図12 第6次調査トレンチ平面図及び土層断面図（2）……12
図13 第2次調査出土遺物……13
図14 第3次調査出土遺物……15
図15 第4次調査出土遺物……15
図16 第5次調査出土遺物（1）……16
図17 第5次調査出土遺物（2）……18
図18 第6次調査出土遺物……19

表目次

表1　第2次調査　掲載遺物一覧 ……20
表2　第3次調査　掲載遺物一覧 ……21
表3　第4次調査　掲載遺物一覧 ……21
表4　第5次調査　掲載遺物一覧 ……22～23
表5　第6次調査　掲載遺物一覧 ……24

写真図版目次

写真図版１　遺構　①調査地全景（西から）　②調査前風景（南西から）

写真図版２　遺構　①第２次調査　調査区全景（垂直）　②第２次調査　第１トレンチ（垂直）③第２次調査第２トレンチ（垂直）

写真図版３　遺構　①第３次調査　調査区全景（垂直）　②第３次調査　第１トレンチ（垂直）　③第３次調査第２トレンチ（垂直）

写真図版４　遺構　①第３次調査　第３トレンチ（垂直）　②第４次調査　調査区全景（南から）　③第４次調査第１トレンチ（垂直）

写真図版５　遺構　①第４次調査　第２トレンチ（垂直）　②第４次調査　第３トレンチ（垂直）　③第４次調査第１トレンチ墳丘裾

写真図版６　遺構　①第５次調査　調査区全景（垂直）　②第５次調査　第１トレンチ（垂直）　③第５次調査第２トレンチ（垂直）

写真図版７　遺構　①第５次調査　第３トレンチ（垂直）　②第５次調査　第４トレンチ（垂直）　③第５次調査第１トレンチ墳丘裾　④第５次調査　第４トレンチ墳丘裾

写真図版８　遺構　①第５次調査　第４トレンチ　葺石出土状況　②第６次調査　調査区全景（垂直）　③第６次調査　第１トレンチ　墳丘裾

写真図版９　遺構　①第６次調査　第１トレンチ（垂直）　②第６次調査　第２トレンチ（垂直）　③第６次調査第３トレンチ（垂直）

写真図版 10　遺物　①第２次調査出土遺物（１）　②第２次調査出土遺物（２）　③第２次調査出土遺物（３）　④第３次調査出土遺物（１）　⑤第３次調査出土遺物（２）

写真図版 11　遺物　①第３次調査出土遺物（３）　②第３次調査出土遺物（４）　③第４次調査出土遺物（１）　④第５次調査出土遺物（１）　⑤第４次調査出土遺物（２）

写真図版 12　遺物　①第５次調査出土遺物（２）　②第５次調査出土遺物（３）　③第５次調査出土遺物（４）　④第５次調査出土遺物（５）　⑤第５次調査出土遺物（６）　⑥第５次調査出土遺物（７）　⑦第５次調査出土遺物（８）　⑧第５次調査出土遺物（９）

写真図版 13　遺物　①第５次調査出土遺物(10)　②第５次調査出土遺物(11)　③第５次調査出土遺物(12)　④第６次調査出土遺物（１）⑤第６次調査出土遺物（２）　⑥第６次調査出土遺物（３）　⑦第６次調査出土遺物（４）　⑧第６次調査出土遺物（５）

1．位置と環境

九僧塚古墳は史跡大塚山古墳群を構成する古墳の一つで、大型前方後円墳の大塚山古墳の西側に隣接する方墳である。現状の墳丘規模は南北32m、東西26m、高さ4.5mを測る。大塚山古墳群は8基の古墳が一括で昭和31年12月28日に国指定史跡に指定されている。

九僧塚古墳のある河合町は、奈良盆地北西部に広がる奈良盆地の中西部に位置している。「河合」の地名は町域の北東部で奈良盆地の多くの河川が合流して大和川となることに因っている。河川合流点の河合町川合には『日本書紀』天武天皇四年条に記事がみられる「廣瀬神社」があり、水の神として知られる。本殿は奈良県指定文化財であり、また、毎年2月11日に行われる「砂かけ祭」は大和の奇祭として広く知られ、町指定無形民俗文化財である。

図1　奈良県における河合町の位置

大塚山古墳群周辺の遺跡は縄文時代後期以降様々な遺跡が形成されてきた。大塚山古墳群の南東側に位置する長楽遺跡では縄文時代後期の土器が出土している。その北側、廣瀬神社の南側に広がる宮堂遺跡では縄文時代晩期の土器や石器が出土している。剥片が出土していることから集落があった状況を想定できる。弥生時代については明確ではないが、廣瀬神社の西側や宮堂遺跡で当該期の遺物は出土しており、何らかの遺構があることは想像に難くない。

続く古墳時代には大塚山古墳群が築かれるとともに、大塚山古墳の東側の宮堂遺跡に集落が形成されていたようである。また、大塚山古墳の南西側の丘陵側にも、のちの長林寺につながる何らかの遺構があったと考えられる。

飛鳥時代には宮堂遺跡に引き続き集落があったと考えられるほか、穴闇に聖徳太子伝承のある長林寺が建立される。

図2　九僧塚古墳周辺の遺跡分布図

聖徳太子が活動していた時期と同時期には小規模な建物はあったとみられるが、七堂伽藍が整ったのは天武朝頃と考えられ、天武天皇四年に廣瀬の河曲に大忌神を祀ったことと関連が深いと考えられる。

奈良・平安時代には小東庄などの荘園開発が進み、この時期に古墳周辺の地形も大きく改変されるようである。

中世には大塚山古墳東側の居場垣内遺跡や城山古墳北側の市場垣内遺跡といった環濠を持つ館が相次いで成立する。また、大塚山古墳及び城山古墳は河合城・川合城として活用されたと伝えられている。

近世には大和川舟運の船着場・荷上場として「川合浜」が整備される。位置が異なる可能性は考えられるが、前身となる川港があったと考えられる。河合町北東部は大和川水運との関わりで様々な遺跡が残されているものと考えるのが妥当であろう。

2. 調査の経過

国指定史跡に指定された昭和31年当時の指定地範囲は墳丘と周濠までであることが多く、大塚山古墳群においても現在認識されている古墳の範囲よりも狭い範囲の指定に留まっている。九僧塚古墳は二段築成の方墳と考えられるが、墳丘の規模や構造は明確にはなっていない。また、史跡指定は上段のみで、下段部分は史跡指定地ではない。平成9年度策定の『史跡大塚山古墳群保存管理計画』では九僧塚古墳の周囲を追加指定を目指す地区として定義している。このため、本来の墳丘の範囲を確認し、また、付属の施設や大塚山古墳との関連を探る目的で、平成 26 年度から範囲確認調査を継続して実施している。

図3　史跡大塚山古墳群　史跡指定範囲

第１次踏査（平成８年度）

平成 26 年度からの範囲確認調査以前の調査として、平成８年度に九僧塚古墳隣接地での発掘調査を実施している。墳丘の東側の水路との間で東西幅２mのトレンチを設定し調査を行った。この隣接地は現状では墳丘下段平坦面と同じ高さになっているが、旧耕作土の上に 1.7 mの盛土が施されている。このため墳丘の東辺はその南北の地割と少しずれているが、調査によって墳丘裾は南北の地割と直線的に復元しても齟齬はないと思われる。

第２次調査（平成26年度）

平成 26 年度に実施した第２次調査では、詳細な現状の測量図を作成するとともに、墳丘下段部南側に２か所のトレンチを設け、下段部での埴輪列等の遺構の確認を目的として調査を実施した。2-1 トレンチは墳丘下段南辺中央部に南北方向に設定した。2-2 トレンチは南東隅角部に設定した。

第３次調査（平成 27 年度）

平成 27 年度に実施。前年度の調査に引き続き墳丘下段の遺構の確認を行った。墳丘の東側(3-1)、北東側(3-2)、南西側（3-3）の３か所に幅 2m のトレンチを設定し調査を行った。

第４次調査（平成 28 年度）

平成 28 年度の調査では、墳丘下段に１か所（4-3）、墳丘隣接地に２か所のトレンチ（4-1、4-2）を設けた。墳丘隣接地での調査は本来の墳丘裾及び周濠の有無と範囲の確認を目的とした。

墳丘調査地の現状は水田である。調査後も耕作を継続されることを考慮し、なるべく深く掘削する部分を少なくすることを念頭に置いた調査を行った。トレンチは幅2mで設定し、耕作土を除去後の精査で遺構が確認できれば、耕作機械が沈み込まない程度の深さまでは埋土を全面的に下げる予定であった。しかし、耕作土層の下層は古い耕作土層があるため、幅 40 ～ 80 cmで断ち割りを行い、下層の状況、遺構の確認を行うにとどめた。また、耕作者と協議し、トレンチの設定方向、断ち割りの方向については耕起の方向に直交する方向とすることとした。また、埋め戻しについては重機を用い締め固めを行うこととした。

第５次調査（平成 29 年度）

平成 29 年度の調査では、墳丘西側隣接地に２か所（5-1、5-2）、北側隣接地に２か所（5-3、5-4）のトレンチを設定し墳丘裾の確認を行った。

5-2 トレンチは 4-1 トレンチの西側延長線上に設定し、西側に上がる傾斜面の有無確認目的とした。

トレンチ設定の方向や掘削の方法は前年度と同様としたが、5-3 トレンチについては4次調査の成果に対応させるため、耕作の方向と平行する方向でのトレンチ設定となった。5-３トレンチの部分はもともと水はけの悪い水田であったが、近代以降に大きく攪乱を受けていることも判明し、調査後に地盤が締まらず、部分的に耕作をされなかった。

第６次調査（平成 30 年度）

平成 30 年度の調査では、墳丘西側隣接地に１か所(6-1)、北側隣接地に２か所(6-2、6-3)のトレンチを設定した。

6-1、6-2 トレンチは墳丘裾確認を目的とし、6-3 トレンチは 5-4 トレンチ北端で確認された北に上がる砂層の確認を目的とした。

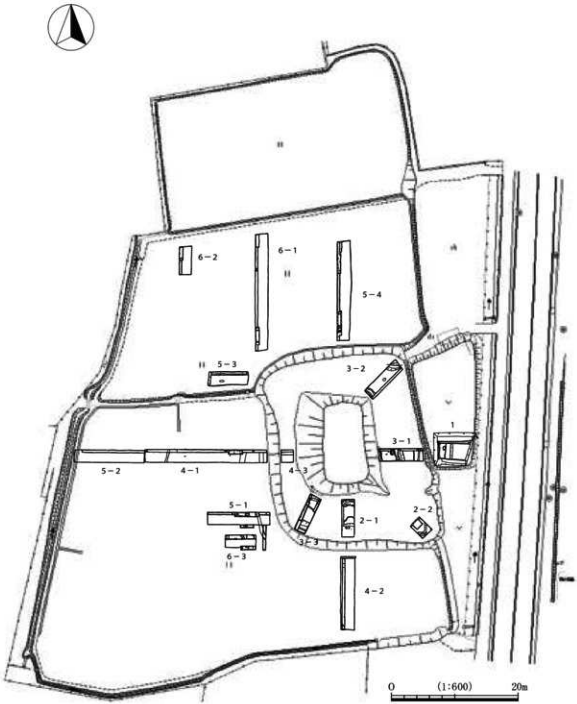


図4　九僧塚古墳発掘調査　トレンチ配置図

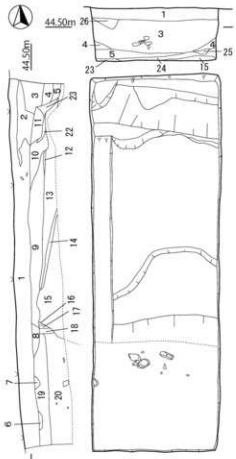
3．遺構

第２次調査

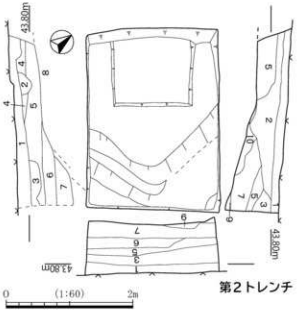
墳丘下段南側平坦面に設けた2か所のトレンチで現状の墳丘斜面より内側で墳丘斜面の上端を検出している。西側のトレンチ（2-1）は墳丘下段南辺中央部に南北長６m、幅２mで設定し、上段の下端近くまで掘削を行ったが、埴輪列は確認できなかった。トレンチの北端から3.9 m南の位置で、下段南辺斜面の上端を検出している。

東側のトレンチ（2-2）は南東方向に長３m、幅２mで設定した。このトレンチでは下段上端の隅角部を確認している。直角に屈曲しており墳形が方墳であることの根拠となりうるが、後世の開墾により本来の形状に沿って削られており、葺石の遺存は認められなかった。

出土した遺物には埴輪の基底部の破片も多くみられることから、墳丘下段の平坦面及び墳丘上段も大きく削平されていると考えられる。



第１トレンチ



第２トレンチ

第２次調査第２トレンチ東・西・南壁

層位番号	土層名	土色記号	備考
1	黒色土	7.5YR2/1	粘性土
2	黒褐色土	2.5Y3/2	しまり悪い
3	黒褐色土	2.5Y3/2	しまり悪い
4	にぶい黄橙砂質土	10YR5/4	径１～３mmの白色砂粒を含んでいる
5	暗灰黄色土	2.5Y4/2	粘質土でしまる。遺物含む
6	褐色砂質土	7.5YR5/6	やや軟い。径２～５mmの白色砂粒を含む 下位に30cm大の礫敷き（数段）の痕跡あり
7	暗褐色土	10YR3/3	径５mmの軟いの白色砂粒を含む
8	にぶい黄橙色粘質土	10YR6/4	粘土質土。径１～５mmの砂粒を多く含む
9	明黄褐色粘土	10YR6/8	軟かく、粘質強い。白色砂粒が含む
10	褐灰色粘質土	10YR7/6	径１～３mmの白色砂粒を多く含む

第２次調査　第１トレンチ西・北壁

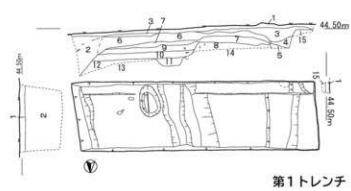
層位番号	土層名	土色記号	備考
1	灰褐色土	2.5Y4/2	粘性土（ラベル土層）。しまり悪い。遺物含む 土層断面に軟くて土質は10YR4/2 断面土質色は、7.5YR、7.5、3～5.mm
2	黒褐色砂質土	2.5Y5/3	粘土質。しまり悪い。ぼそぼそ
3	黄褐色砂質土	2.5Y5/3 2.5Y5/2	2.2.5で硬い色調。2.2.5で粘土で細かい
4	明黄褐色土	10YR7/6	粘土ブロック混入
5	褐灰色土	10YR4/1	粘土質かい。
6	灰白褐色土	2.5Y4/2	1.2.5で少し明るい。1.2.5で黄褐がかる。細かい
7	灰白褐色土	2.5Y4/2	1.2.5で少し明るい
8	灰白褐色土	2.5Y4/2	1.2.5で少し明るい
9	黄褐色土	2.5Y5/3	2.2.5で色調は中の硬い。径２～５mmの白色砂粒を少量含む 20cm大の割合土
10	黄褐色土	2.5Y5/3	中やわらか。2.2.5で含む砂粒少ない 10YR4/6明黄褐色粘土混じる
11	灰白黄色土	2.5Y4/2	1.2.5粘性に作う硬
12	にぶい黄色砂質土	2.5Y6/4	径２～５mmの白色砂粒を多く含む
13	にぶい黄色砂質土	10YR6/4	径１～５mmの白色砂粒を多く含む 2.10YR4明黄色粘土ブロックを含む。もっしまる。粘質強く
14	褐色砂質土	10YR4/4	粒子細かい 2.7に色が少明（2.5YR5/8）。白色砂粒が少し含む。粘質強く
15	にぶい黄色砂質土	10YR6/4	53に同じ。7層は10YR5/4にぶい黄褐色を呈す。砂粒少な かな。粘質強く
16	黄褐色土	2.5Y5/3	白色砂粒少し含む
17	黒灰色土	2.5Y3/1	細かい。木根による腐敗？
18	にぶい黄色土	2.5Y4/3	木根による腐敗？
19	にぶい黄褐色粘質土	10YR4/4	粘質土で硬い 径１～３mmの白色砂粒を含む(が33×15よりも少ない
20	黄褐色粘質土	2.5Y5/3	白色砂粒はほとんど含まない 埴輪とおぼしき、下位に行くにつれ規模大きくなる 青銅鏡あり
21	灰褐色砂質土	2.5Y6/2	ぼそぼそ
22	明黄褐色	2.5Y6/3	3.4.5層に
23	明褐色粘質土	7.5YR5/6	細かい。しまる。粘質強き
24	灰色粘質土	5G/6	細かい。黄色土（10YR7）混じる。遺物混入。粘質土
25	にぶい黄橙色砂質土	10YR7/4	細かい
26	にぶい黄橙色砂質土	10YR7/3	ローム土2.5YR5/8層状黄色土 26上面にとりなおされる

図５　第２次調査トレンチ平面図及び土層断面図

第３次調査

3-1 トレンチは墳丘下段東側平坦面に長7m、幅2mで東西方向に設定した。3- 1トレンチでは平坦部で南北方向の溝が2条検出されている。一つは現状の墳丘上段裾から約１m東側、他の一本は約4m東側で検出されている。墳丘上段裾の位置を推定する手掛かりになる可能性がある。また、現状の上段裾から約 6.8 m東へ離れたトレンチ東端では下段の斜面上端が検出されている。おそらく墳丘下段が削られたあと、上段を削って下段の平坦面を拡げたと考えられる。

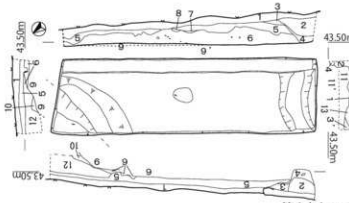
3-2 トレンチは墳丘下段北側平坦面に長7m、幅2mで南西から北東方向に設定した。このトレンチでは下段北辺の上端を検出した。こちらでも同様に下段が削られたのちに下段平坦面及び上段を削った土を被せ北側へ下段平坦面を



第１トレンチ

第３次調査　第１トレンチ東・西・南壁

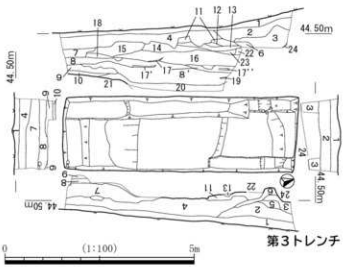
層位	土層名	土色和記号	備　考
1	オリーブ黒色土	7.5Y3/1	耕作土。しまりない
2	暗灰黄色土	2.5Y4/2	地表 ごく薄くコンクリート・アスファルト・石
3	黄色粘質土	10YR6/6	耕作時・粘質軟な部分
4	褐色土	2.5Y3/3	明色（2.5YR6/3）粘土塊混在
5	褐色土	2.5Y4/3	2層よりも暗い。
6	暗灰色土	5.Y4/1	細かくて、土質よりややしまり悪い。 土は細く粘土質ではない。（ごく微）。
7	暗灰黄色土	2.5Y5/2	細かくて、ややしまりあり。
8	明黄褐色粘質土	10YR6/6	粘質性、撹拌ムラ
9	褐色粘質土	10YR4/6	軟、しまりのない粘質土
10	褐色粘質土	2.5Y5/4	粘砂粒多く含む粘質土
11	オリーブ黒色土 褐色粘質土	2.5Y4/3	撹拌含む。粘質土。炭化物、しまり悪い
12	オリーブ黒色粘質土	2.5Y4/3	炭質粘土。かた締まり
13	にぶい黄褐色粘質土	10YR6/4	炭化粘質土
14	褐色土	7YR4/4	明色（7.5YR6/3）粘土塊混在。 炭質粘砂のパイプ状土壌痕 炭粒含む。構造不明瞭なもの。
15	褐色土	7.5YR4/4	炭粒含（10YR7/8）粘土塊、土質不均一
16	にぶい黄褐色	10YR5/4	にぶい橙色（10YR7/3）粘質土塊、炭化物（10YR6/3）含
17	暗褐色土	10YR4/3	細かくしまりがない。炭粒含む。



第２トレンチ

第３次調査　第２トレンチ東・西・南・北壁

層位	土層名	土色和記号	備　考
1	褐色土	10YR4/3	耕作土
2	暗灰黄色土	2.5Y4/2	明色（2.5YR6/3）の土塊混在部分
3	褐色土	2.5Y3/4	暗色
4	褐色土	2.5Y3/4	2層よりも明（明色）部分が多い
5	灰色粘土	5Y5/1	粘質性、しまりあり。
6	明黄褐色粘質土	10YR6/6、5/8、5/4	明色（10YR6/6、5/8、6/6、5/4 が混ざる）。 砂質粘土。よくしまる。
7	褐色土	7.5YR4/4	明色（7.5YR7/3）土塊混在。
8	明黄褐色粘質土	10YR6/6、5/8	粘質で固、軟土。炭化粘土
9	褐色粘土	7.5YR4/4	明色（7.5YR7/3）土塊混在。
10	明黄褐色粘質土	10YR6/6、5/8	明色（明色）粘質土。
11	暗灰色粘土	5Y5/1	粘質性、しまりがない。
12	暗灰黄色粘質土	2.5Y4/2	粘質性、炭粒含む。
13	暗灰黄色粘質土	2.5Y4/2	粘質性、炭粒含む。やや軟かい。
14	暗灰黄色粘質土	2.5Y4/2	粘質土
15	褐色土	10YR4/3	炭粒含む。粘質土。
16	褐色土	10YR4/3	炭粒含む。粘質土。



第３トレンチ

第３次調査　第３トレンチ東・西・南・北壁

層位	土層名	土色和記号	備　考
1	褐色土	10YR3/3	耕作土
2	褐色土	10YR4/4	赤味をまったくおびた褐色土（10YR6/3）及び明赤褐色を含む 粘質性を含むしまりのない土 強灰白斑点
3	にぶい黄橙色	10YR6/3	赤味色・明橙色を含む 10YR7/8 粘土塊
4	灰黄褐色	10YR5/2	粘質性
5	にぶい黄橙色	10YR6/3	2層に対応
6	灰黄褐色	10YR5/2	粘質土
7	にぶい黄橙色	2.5YR6/3	粘土が硬い土
8	にぶい褐色粘質土	5.YR6/3	しまりない 明砂質粘土
9	にぶい褐色粘質土	5.YR6/3	
10	灰黄褐色土	10YR5/2	明るい褐色を含む。しまりない。
11	にぶい黄橙色	10YR6/3	明るい。しまる
12	灰黄褐色	10YR5/2	粘質性を含む。
13	にぶい黄橙色 粘質土	10YR6/3	明るい砂質
14	オリーブ黒色 粘質土	5Y6/3	明るい・粘質粘土
15	にぶい黄橙色	10YR6/3	明るい砂を含む。しまる。
16	灰黄褐色	10YR5/2	明るい。しまる。
17	にぶい黄橙色	10YR6/3	明るい砂を含む。しまる砂質土
18	褐色土	5.YR3/3	明砂質を含む。しまる砂質土
19	褐色土	7.5YR3/3	
20	褐色土	7.5YR3/3	ごく薄く
21	褐色土	7.5YR3/3	広い・明色（5.YR6/3）赤味色・砂質土が部分的に散在する
22	褐色土	7.5YR3/3	しまりのない土
23	褐色土	7.5YR3/3	ごく薄く
24	オリーブ黒色 粘質土	5Y3/2	明るい・砂質土
25	にぶい黄橙色 粘質土	10YR6/3	明るい・砂質土
26	オリーブ黒色 粘質土	5Y3/2	明るい
27	にぶい黄橙色	10YR6/3	明るい砂質土
28	褐色土	7.5YR3/3	明・砂質土をなくしまりのない土（砂質）。

図６　第３次調査トレンチ平面図及び土層断面図

拡げ、耕作地としたと考えられる。また、トンチ南西端で検出された溝は、ヒューム管が入っており、現代の攪乱である。上段の裾位置を知る手掛かりとはし難い。

3-3 トンチは墳丘下段南側平坦面に長6m、幅2メートルで北東から南東方向に設定した。このトンチでは下段の斜面上端は検出されず、墳丘盛土内の断ち割りとなった。南側隣接地の水田面に近い高さまで盛土と考えられる。トンチ底面付近（10 層）で須恵器の破片と縄文土器の破片が出土している。1～ 6 層は後世の耕作に伴う土層である。4 層の下層は墳丘盛土である。狭い断ち割りでの確認をおこなったため、十分な観察ができていないが、粘質土層と砂質土層が互層に盛られているようである。また、8 層内には薄い砂質土層が入り、盛土の単位も確認できるかもしれない。

第４次調査　第１トレンチ北壁

層位番号	土想名	土色	備考
1	耕土	5Y/3	耕作土
2	オリーブ灰色土	2.5GY/1	粘砂をやや含む。褐鉄色土の1面確認 鉄色の斑点が多くみられる
3	黒灰色土	10BG/1	粘砂を2と1等量で含む 1と2の間には10BG/6明黄褐色層2～5cm
4	灰褐色土	2.5YR/2	10BG/8明黄褐色土及び褐砂含んでいる
5	暗灰色土	5Y/3	褐鉄色に近い明黄褐色
6	黒灰色砂質土	2.5YR/1	
7	灰色土	10BG/1	2よりやや明るい色調、粘砂含む
8	灰色土	5.BG/1	上位は褐鉄色土粒を含む。粘砂を含む
9	黒灰色土	10YR/1	径5mm前後の粘砂粒を多く含む 10BG/8明黄褐粘土ブロック含む 3とマンガンン多い。10BG/2の土粒多く含む
10	黒灰色土	5.BG/1	細かい砂粒を含む。粘土の粒細かい。上の層より 10と同じ。細かい砂粒を含む 褐鉄い粒状ではなく点状でばらばらに入っている
11			径2～5mmの砂粒、7.BG/2灰褐色褐砂をブロック状に含む
12	灰色砂質土	7.BG/1	径2mm前後の粘砂土を含む。褐砂
13		5.BG/1	12と同じ
14	黒色砂質土	7.BG/1.4	細かい
15	明黄褐色砂質土	10YR/6	粒子細かい
17	黒灰色砂	5.YR/1	12に近いが砂質を足す。細かい
18	灰色砂質	5.BG/2	足2～3の細かい砂
19			18と同じ
20			12に同じ
21			12に同じ
22			12に同じ
23			12に同じ
24			18と同じ。若干やらかい
25			18と同じ
26	灰色粘質土	5G/9	径2～5mm程度の粘砂を多く含む。褐鉄多い
27	黒褐色粘質土	5.BG/4	26の混じり
28	上部に褐鉄粘質土	10YR/5	粒子細かい
29			12と同じ
30			18と同じ
31			12と同じ
32			18と同じ
33	上部に赤褐色砂質土	10YR/3	粗い砂含みやすくしまる
34			18と同じ。11同様18層下ではないが何かしらあるか
35	明黄褐色粘質土	10BG/8	白粘砂、灰色粘土含む。33より粗雑
36			33と同じ
37			18と同じ
38			18と同じ
39			33と同じ
40			33と同じ
41			33と同じ
42	上部に黒褐色砂質土	10YR/4	粘砂多く含んでしまる
43			33と同じ
44			33と同じ。灰色粘砂、細かい砂、1厚点下層残さ
45			33と同じ。11同様
46			42と同じと考えてもよいが、42・44のようなまとまりはかんじさせない 粘質
47			33と同じ
48	上部に赤褐色粘質土	10YR/2	33と同じ。すこ粗雑によりやや疎密 褐鉄色多いものも含む。砂粒はかんじさせない
49	明黄褐色粘土	10BG/8	7.5YR/2で粒子多く含む。褐鉄多
50	黒灰色砂質土	7.5YR/1	10BG/8明黄褐色粘質土含む。褐鉄多い
51	灰色粘質土	5.G/1	粒子粘土
52	明黄褐色粘土	2.5YR/3	粒子粘土
53	灰色砂	5Y/5	細かい砂
54	灰色砂	5G/9	細かい砂 36よりやや明るくがやがや。明るく見える
55	黒灰色砂質土	10YR/1	径2～3mmの白粘砂含む
56	黒褐色砂質土	10YR/3	細かい。褐鉄多い
57	オリーブ灰色砂質土	5Y/2	10BG/8明黄褐色粘質土混じる
58			56
59	黒灰色粘土	10YR/1	
60	灰色砂質土	7.5Y/1	7と同じ。10YR/8混じる
61	灰色粘質土	5G/9	径1mm前後の白粘砂含む。
62	灰色砂	5G/9	粒子細かい。7.BG/2褐鉄色の粘粒を含む
63	灰色粘質土	5G/9	61と同。砂粒はかんじさせない
64	灰色砂質土	5G/9	5.5GY砂質土。7.5YR/1粘質土。5.YR/1粘土ブロックを入る
65	灰白色砂	5Y/1	細かい砂。7.5BG/8褐鉄土含む
66	暗赤褐砂質土	5R/3	粒子粗くしまる 5.BG/4粘質土。10BG/1砂質土混じる
68			62と同じ
67	明黄灰色砂	5.YR/1	細かい砂
68	黒粘土		
69	黒砂		
70	黒灰砂		
71	明褐灰色粘土	10GY/1	黒砂
72	明黄褐色土	10YR/8	
73	黒粘土	2.5YR/1	足1mm以下の細かい砂
75	黒粘土	10YR/8	

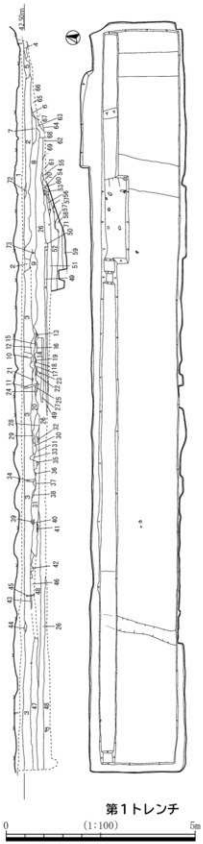
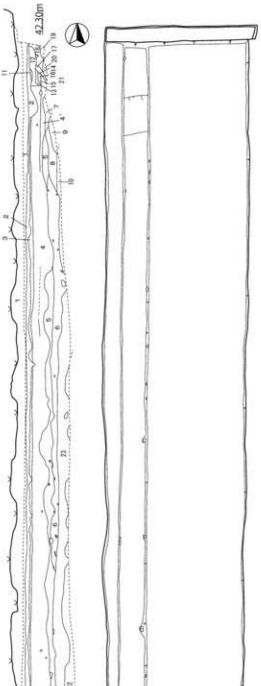


図7　第４次調査トレンチ平面図及び土層断面図（１）

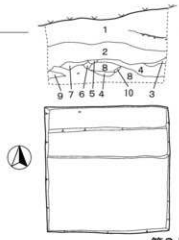
第４次調査

西側隣接地に設けた 4-1 トレンチでは現状の墳丘裾から 5.6 m西側で本来の墳丘裾の位置を推定できる傾斜変換点を確認した。斜面部には葺石材と思われる石が傾斜に沿ってまばらに出土した。おそらく後世の開墾に伴い、原位置を保ったものではないと考えられる。現状の墳丘裾の標高は 42.7 mであるが、4-1 トレンチで検出された裾部の標高は 41.5 mである。ただし、調査期間中は湧水に悩まされ良好な状態での検出は困難であったため、59 層の砂質土が堆積土でよいのか判然としない。

南側隣接地に設けた 4-2 トレンチでは墳丘裾は確認されなかった。耕作土の直下は地山ではほぼ水平である。地山面の標高は 4-1 トレンチで検出された墳丘裾部より約 50 ㎝高い 42.0 mとなっている。このことから南側には造り出しのような付属施設があった可能性も考えられる。現状の墳丘裾から 2.9 m南側で傾斜変換点があり、この部分を墳丘裾と考えておきたい。



第２トレンチ



第３トレンチ

第４次調査　第３トレンチ北壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　考
1	明黄褐色土	2.5YR/6	(下)ゴミあり、現代の層、表土
2	暗灰黄色土	2.5Y4/2	しまり悪い、畑としての耕作土、遺物あり
3	黄褐色土	2.5Y5/4	全より明るく、ややしまる
4	褐色砂質土	7.5YR4/3	径１～10mm程度の白色砂粒を多く含む、しまる
5	にぶい黄褐色砂質土	10YR5/3	径１～3mmの細砂粒多く、径5mm程度の粒砂粒をやや含む 4と8の混じり
6	灰褐色砂質土	7.5YR4/2	4とほぼ同じ、4より粗砂粒やや少ない
7	にぶい黄褐色砂質土	10YR5/3	全より粗砂粒多い
8	にぶい黄色粘質	2.5Y6/4	4くしまる、きめ細かい、粗砂粒を極小に含む
9	灰褐色砂質土	10YR4/2	暗い砂粒を少し含む、ややしまり悪い
10	オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/4	

第４次調査　第２トレンチ北壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　考
1	暗灰色粘質土	N3/0	耕作土
2	青灰色土	5PB5/1	細かい砂粒を含む
3	黄褐色粘土	10YR6/8	径１～2mmの白色粗砂粒を含む
4	黄灰色粘質土	2.5Y6/1	径３～5mmの白色粗砂粒を多く含む
4'			4より砂粒が少ない、やや明い色調
5	灰色粘質土	5Y5/1	径３～5mmの白色粗砂粒を多く含む
6	黄灰色粘質土	2.5Y5/1	細かい砂粒、大きめの礫混、露石材を多く含む
7	灰白砂	5Y7/1	径１～5mmの細かい砂、しまる
8	灰黄褐砂	2.5Y2/2	径１～2mmの細かい砂、さらさら
9	にぶい黄橙砂	10YR7/3	径２～3mmのやや粗い砂、さらさら
10	褐色砂	7.5YR6/6	10YR7/1灰白色砂 4より さらに細かい砂
11	明黄褐色粘質土	10YR6/6	
12	青灰色粘質土	5B5/1	粗砂粒、10YR6/8粘質土含む
13	明黄褐色砂質土	2.5Y7/6	粗い砂粒、しまる
14	灰色粘質土	N4/0	
15	灰黄色砂	2.5Y7/2	粗い砂、10YR6/8粘質土含む
16			13に同じ
17			13にほぼ同じ
18	青灰色土	5PB5/1	径5mm程の白色砂粒含む
19	黄灰色砂	2.5Y6/4	細かくしまる
20			19に同じ
21	灰白色砂質土	2.5Y7/1	細かい砂粒を含む
22	明黄褐色粘土	10YR6/8	10YR6/8黄褐色砂を含む
23	灰白色砂	5Y7/2	径１～2mmの細かい砂、さらさら

図８　第４次調査トレンチ平面図及び土層断面図（２）

4-1トレンチの延長線上、墳丘下段に設けた4-3トレンチでは2・3次調査と同じく埴輪列等は確認できなかった。締まりのない土が堆積している。

第5次調査

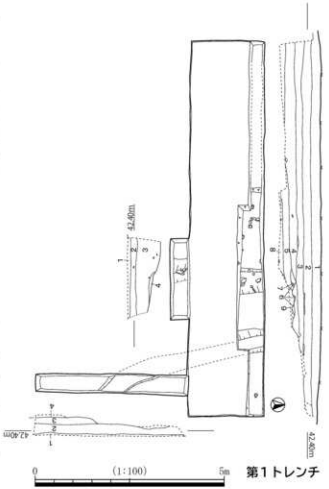
平成29年度の調査では、墳丘西側隣接地に2か所（5-1、5-2）、北側隣接地に2か所（5-3、5-4）のトレンチを設定し墳丘裾の確認を行った。

5-1トレンチは西側と南側で本来の墳丘裾を確認するために、現状の墳丘の南西隅の西側に逆L字状にトレンチを設定した。西側では現状の墳丘裾から約4.5m西側で本来の墳丘裾の位置に近い部分を確認した。裾部の標高は41.7mである。4-1トレンチの墳丘裾部の標高より約20cm高くなっている。墳裾が北に行くにつれて下がっていくと考えられる。南側では4-2トレンチ同様、地山面は42.1mで西側より約40cm高く検出され、南側と西側では墳丘裾の高さが異なる。

5-2トレンチは4-1トレンチを西に延長した部分に設定し、西側に上がる傾斜面の有無の確認を行った。現在の地割から想定した周濠の範囲は4-1トレンチ内に収まるものと考えたが、実際には4-1トレンチで西側に上がる地形は検出できなかった。このため、その延長部分で調査を行ったが、このトレンチでも検出できなかった。このため当初想定したような周濠状の遺構は存在しないのかもしれない。

5-3トレンチは北西隅角部の位置の確認を目的として設定したが、後世の攪乱により位置の確定には至らなかった。

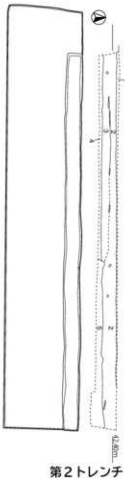
5-4トレンチは北側の墳丘裾を確認するために設定した。このトレンチでは現状の墳丘裾から3.6m北側で本来の墳丘裾と推定できる部分を確認した。裾部の標高は41.4mである。また、15.4m北側で南から北に上がる砂質土層の傾斜面（第10層）を確認した。濠状の遺構の存在が考えられる。

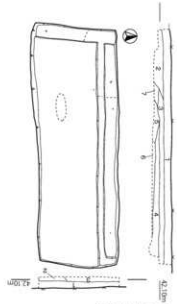


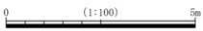
第5次調査　第1トレンチ北壁

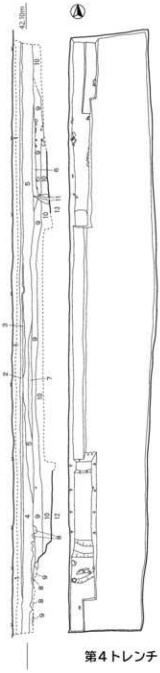
層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒色土	N2/0	耕作土
2	オリーブ灰色土	2.5GY5/1	粗砂を少し含む，現耕作土の1段階前畝状の墳丘に沿って広がる
3	灰色土	7.5Y5/1	2.5Y4/6 赤褐色土粒を含む，粗砂を含む
4	灰色粘質土	N5/0	径5mm 程度の粗砂を若干含む，遺物多い
5	灰色粘質土	5Y5/1	10YR6/8 明黄褐色粘質土含む，遺物多い
6	褐灰色砂質土	10YR4/1	径1～3mm の白色砂粒含む
7	灰色砂	N6/0	細らい砂 N3 よりやや粗くボサボサ，明るく見える
8	暗灰黄色粘土	2.5Y5/2	密な粘土
9	暗赤褐砂質土	5YR3/2	粒子粗くしまる
			7.5YR5/6 粘質土，10YR5/1 砂質土混じる

図9　第5次調査トレンチ平面図及び土層断面図（1）









第5次調査　第2トレンチ北壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒色土	N2/0	耕作土
2	褐灰色土	10YR5/1	砂粒多い
3	灰色粘質土	N5/0	砂粒少ない、粘質
4	灰色粘質土	5Y5/1	
5	にぶい赤褐色粘質土	5YR5/3	粗砂多い

第5次調査　第3トレンチ東・南壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒色土	N2/0	耕作土
2	灰白色砂	2.5Y8/2	粒子の粗い砂
3	青灰色粘土	10BG6/1	
4	灰褐色土	5YR4/2	粘質
5	緑灰色粘土	10G6/1	密な粘土　黄灰色（2.5Y5/1）上壌混じる
6	明褐色粘質土	7.5YR5/6	
7	灰色砂	N6/0	暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）粘質土混じる

第5次調査　第4トレンチ西壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒色土	2.5Y2/1	耕作土
2	明褐色土	7.5YR5/8	
3	灰白色粘質土	10Y7/1	
4	青灰色粘質土	10BG5/1	
5	明黄褐色土	10YR6/8	
6	灰褐色土	7.5YR6/2	粘質
7	にぶい褐色土	7.5YR5/3	砂粒を多く含む
8	褐灰色土	7.5YR6/1	
9	黄灰色粘土	2.5Y5/1	遺物を多く含む

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒色土	2.5Y2/1	耕作土
2	明褐色土	7.5YR5/8	
3	灰白色粘質土	10Y7/1	
4	青灰色粘質土	10BG5/1	
5	明黄褐色土	10YR6/8	
6	灰褐色土	7.5YR6/2	粘質
7	にぶい褐色土	7.5YR5/3	砂粒を多く含む
8	褐灰色土	7.5YR6/1	
9	黄灰色粘土	2.5Y5/1	遺物を多く含む

図10　第5次調査トレンチ平面図及び土層断面図（2）

第６次調査

平成 30 年度の調査では、北側隣接地に２か所（6-1、6-2）、墳丘西側隣接地に１か所（6-3）のトレンチを設定した。

6-1 トレンチは 5-4 トレンチの西側に設定し、5-4 トレンチで検出した墳丘裾部に対応する部分の確認をおこなった。現状の墳丘から 2.6 m北側で対応する部分を確認した。裾部の標高は 41.4 mである。また、15.4 m北側で南から北へ上がる砂の層を確認している。

6-2 トレンチは 5-4、6-2 トレンチで確認された北側に上がる砂層を確認する目的で設定したが確認できなかった。

6-3 トレンチは 5-1 トレンチの南側に設定し、現状の墳丘裾より 4.5 m西側で本来の墳丘裾と推定できる部分を確認した。裾部の標高は 41.6 mである。南側のサブトレンチでも同様の状況がみられ、隅角部は検出できなかった。

第６次調査　第１トレンチ西壁

層位番号	土層名	土色帖記号	備　　考
1	黒色土	10YR2/1	耕土
2	灰色土	N6/0	旧耕土
3	オリーブ灰色土	2.5GY6/1	
4	褐灰色粘質土	10YR5/1	
5			
6	明黄褐色粘質土	10YR6/6	しまる，若干遺物含む
7	灰褐色粘質土	5YR4/2	粒子細かい
8			
9	にぶい黄橙色砂質土	10YR7/4	しまる
10	灰褐色土	7.5YR5/2	
11	灰色砂	10Y6/1	粗い砂、10YR6/6 粘土ブロック含む 遺物細片
12	黄橙色粘質土	10YR7/8	細かい粒子、ややしまる
13			明黄色粘土層 淡黄灰色砂黄橙色粘質土層が 5 cm 厚程度で続く（床土）

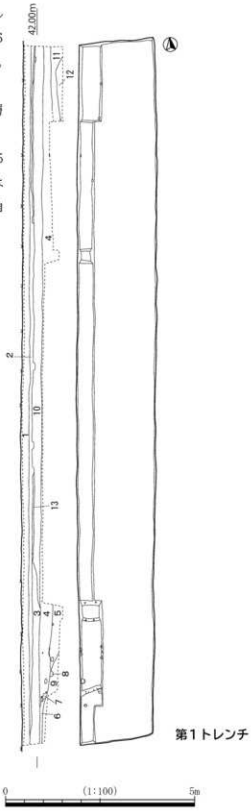
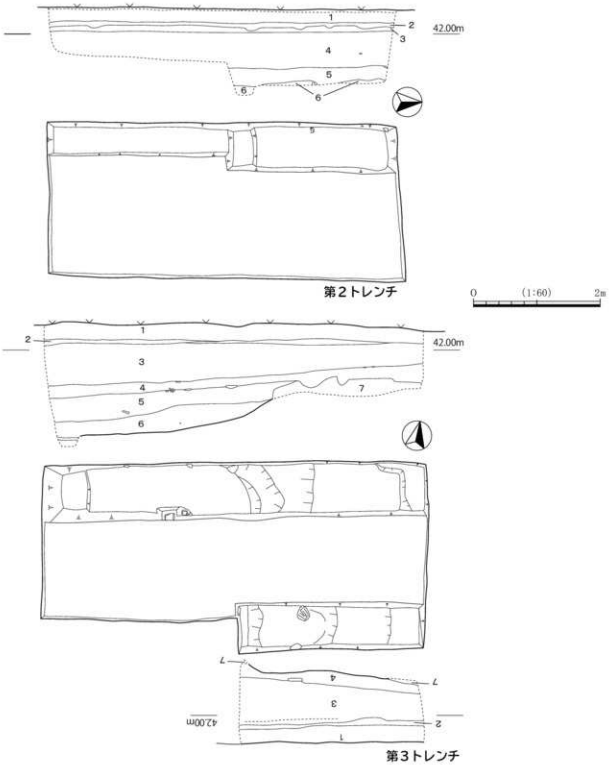


図 11　第６次調査トレンチ平面図及び土層断面図（１）



第6次調査　第2トレンチ西壁

層位番号	土層名	土色結記号	備　　考
1	暗灰色土	N3/0	耕土
2	灰色土	5Y6/1	耕土
3	褐色粘質土	7.5YR6/8	床土
4	灰褐色粘質土	7.5YR5/2	径１～５㎜の砂粒を多く含む
5	黄灰色粘質土	2.5Y5/1	径１～５㎜の砂粒を含む，遺物大
6	黄色粘質土	2.5Y	遺物含む　締かい

第6次調査　第3トレンチ西壁

層位番号	土層名	土色結記号	備　　考
1	黒色土	10YR2/1	耕土
2	暗灰色土	10YR6/1	耕土
3	暗灰色土	7.5YR4/1	砂粒径１～２㎜程度のもの多く，５㎜程度のものも含む
4	灰色土	N5/0	5YR5/6　明赤褐色土を斑状に含む
5	オリーブ黒色粘土	10Y3/2	細かく密，遺物を多く含む
6	青灰色砂	5PB6/1	粒子の粗い砂　地山
7	明褐色砂	7.5YR5/6	上層との境に赤褐色砂（2.5YR4/8）地山
8	暗灰色粘土	N3/0	均一な締まった粘土　地山

図 12　第６次調査トレンチ平面図及び土層断面図（２）

4．遺物

第2次調査（図13）

円筒埴輪、朝顔形埴輪、短甲形埴輪、盾形埴輪、人物埴輪、青磁碗、硯、平瓦などが出土した。埴輪は突帯やハケメなどの特徴から、川西編年Ⅳ期のものと考えられる。第3次～6次調査で出土した埴輪も同時期に属する。

円筒埴輪（1～7）

1は口縁部片で、端部内面はヨコナデによる面をもつ。外面は右斜上方向のハケ、内面はハケを施す。外面に線刻が認められる。2、3、5、6は体部片で、2は外面にヨコハケ、内面にタテハケを施す。3は突出度のやや高い断面M字形状の突帯をもつ。外面にタテハケ、内面にユビオサエ、ナデを施す。5、6はやや突出度の低い断面M字形状の突帯をもつ。突帯の表面はハケ工具を使用したナデにより調整する。5は外面にタテハケ、内面に左斜め方向のハケを施す。円形透かし孔が認められる。6は外面にB種ヨコハケ、内面にユビオサエ、ナデ、ケズリを施す。7は基底部である。断面三角形状の突帯を持ち、体部外面にB種ヨコハケ、底部外面にタテハケ、ユビオサエ、ナデ、内面にユビオサエ、ナデを施す。底面には木の枝と思われる植物圧痕が認められる。

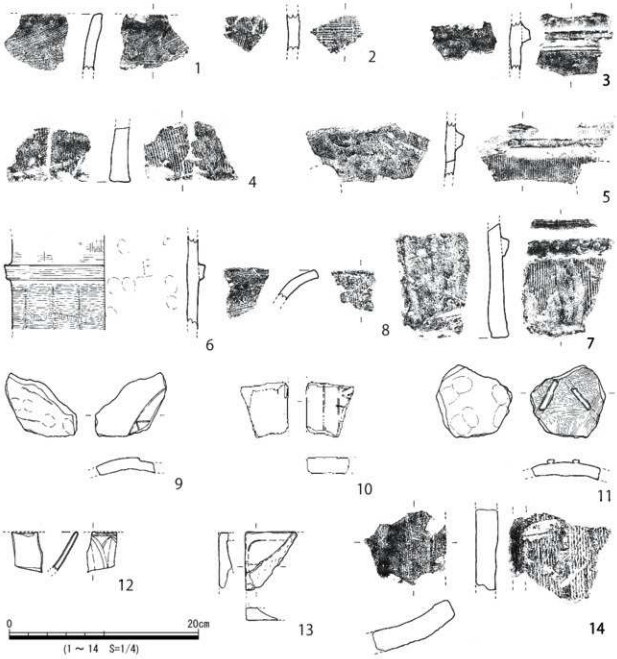


図13　第２次調査出土遺物

朝顔形埴輪（8）

8は朝顔形埴輪の口縁部である。大きく外反し、ヨコナデにより端部に面をもち、下方が肥厚する。外面はタテハケ、内面はヨコハケを施す。

その他の埴輪（9～ 11）

9は短甲形埴輪である。外面をナデ、内面をユビオサエ、ナデで調整する。外面に線刻が認められる。10 は盾形埴輪である。内外面ともナデによる調整を施す。外面に線刻が認められる。11 は人物埴輪である。外面に棒状の粘土塊を貼り付ける。外面にハケ、内面にユビオサエ、ナデを施す。

その他の遺物（12 ～ 14）

12 は龍泉窯系青磁碗の口縁部である。内外面ともオリーブ灰色(5GY6/1)を呈する。外面には蓮弁文が認められる。鎌倉時代に属する。13 は石製硯の破片である。擦痕等は確認できない。14 は平瓦である。凸面に縄目タタキが認められ、凹面は布目圧痕を部分的にナデ消している。端面はヘラ切りを施す。古代に属する。

第3次調査（図 14）

円筒埴輪、朝顔形埴輪、家形埴輪、蓋形埴輪、不明形象埴輪、土師器高杯などが出土した。

円筒埴輪（1～4）

1は口縁部片で、端部に粘土帯を貼り付ける。内面にヨコハケを施す。2、3は体部片で、突出度がやや低めの断面M字状の突帯をもつ。2は外面にB種ヨコハケ、内面にユビオサエ、ナデを施す。3は突帯と体部のつなぎ目に布が当たった痕跡が認められる。外面にB種ヨコハケ、内面にヨコハケを施す。4は基底部で、外面にタテハケを施した後にヨコハケ、内面にタテハケを施す。底面はナデにより調整する。

朝顔形埴輪（5、6）

5は頸部片で、断面三角形状の突帯をもつ。調整は内外面とも摩滅のため不明。6は口縁部を2段に分ける突帯付近の破片で、断面M字形状の突帯をもつ。外面にヨコハケ、内面にナデを施す。

形象埴輪（7～ 11）

7は家形埴輪の壁部分と考えられる。内外面ともナデを施す。8は蓋形埴輪の立ち飾り部である。内外面とも線刻を施す。9～ 11 は器種不明である。9は断面台形状の突帯をもつ。内外面とも摩滅により調整不明である。10 は外面にナデを施し、内面は未調整と思われる。11 は円筒形で中空である。内外面ともナデを施す。家形埴輪の円柱部の可能性がある。

土師器高杯（12）

12 は脚部である。裾部は緩やかに開き、端部内面はヨコナデにより面をもつ。

第4次調査（図 15）

円筒埴輪、朝顔形埴輪、蓋形埴輪、平瓦などが出土した。

円筒埴輪（3）

3は体部片で、やや突出度の低い断面M字形状の突帯をもつ。円形透かし孔が認められる。内外面に赤色顔料が付着する。

朝顔形埴輪（1、2）

1、2は口縁部である。端部はヨコナデ調整により中くぼみの面をもち、下方に肥厚する。1は端部へ向けて屈曲し、角度をもって外反する。外面にヨコハケ、内面にタテハケを施す。2は直線的に外反する。内外面にヨコハケを施す。

蓋形埴輪（4）

4は蓋形埴輪の立ち飾り部で、内外面にハケ、線刻を施す。端面はヘラ切りをした後にナデ調整を行う。

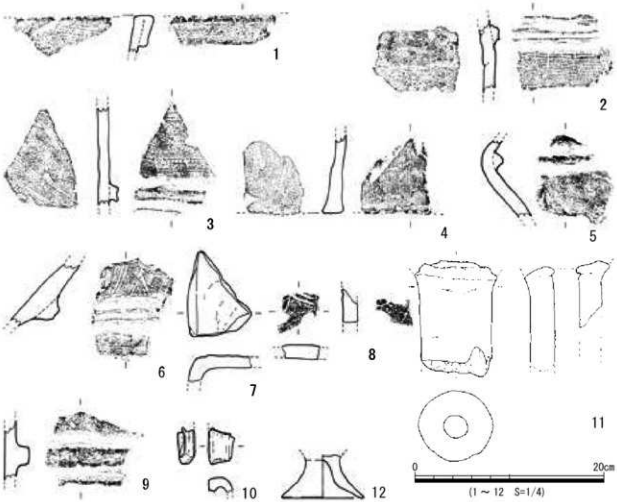


図 14　第３次調査出土遺物

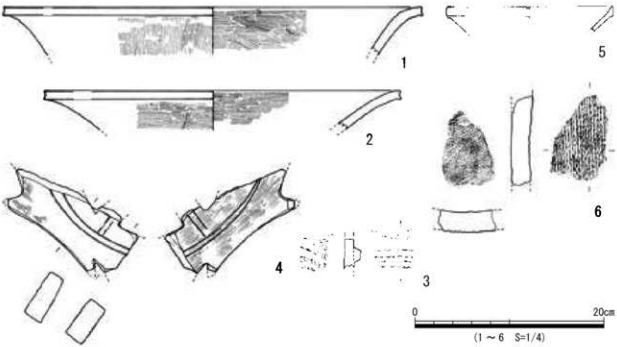


図 15　第４次調査出土遺物

その他の遺物（5、6）

5は中国製白磁碗の口縁部で、端部外面が肥厚する。釉は灰白色（5Y8/1）を呈する。鎌倉時代に属する。6は平瓦の破片で、凸面に縄目タタキ、凹面に布目圧痕が認められる。古代に属する。

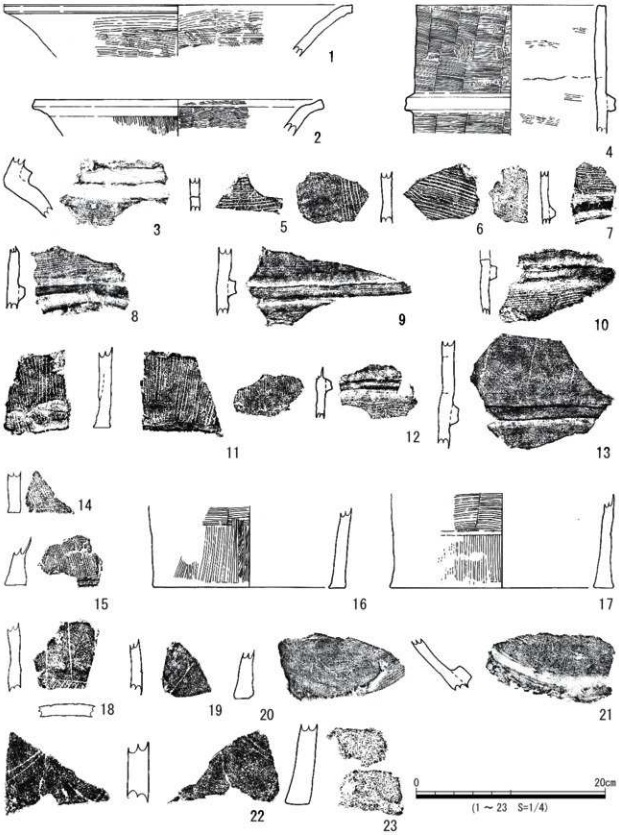


図16　第5次調査出土遺物（1）

第5次調査（図 16、17）

円筒埴輪、朝顔形埴輪、甲冑形埴輪、蓋形埴輪、縄文土器、土師器、須恵器、瓦器、石器などが出土した。

円筒埴輪（図 16 4～ 17）

4は口縁部から1段目の突帯部分まで残存する。端部上面はヨコナデによりくぼむ。突帯は突出度の高い断面M字形である。外面をタテハケの後にB種ヨコハケを施し、内面はヨコハケの後にナデ調整を行う。5～ 10、12、13 は体部片、11、14 ～ 17 は基底部片である。うち6、7、11 ～ 13 は須恵質である。5は外面にヨコハケ、内面にナデを施す。円形透かし孔が認められる。6は外面にヨコハケ、内面に突出度の高い断面M字形状の突帯をもつ。外面にヨコハケ、内面にナデを施す。10 は円形透かし孔が認められる。12、13 は突出度の低い断面M字形の突帯をもつ。12 は外面にタテハケの後にB種ヨコハケ、内面にタテハケを施す。13 は外面にB種ヨコハケ、内面にナデを施す。11、14、16 は垂直に伸びる基底部である。11 は内外面にタテハケ、底部にヨコナデ、底面にナデを施す。14 は外面にタテハケ、底部にヨコナデ、底面、内面にナデを施す。底面には線刻が認められる。16 は外面にB種ヨコハケ、内面にナデ、底部外面にタテハケ、底面にヨコナデを施す。15、17 は内にくぼみながら伸びる基底部である。15 は外面にタテハケ、内面にナデ、底部内外面にヨコナデ、底面にナデを施す。17 は外面にB種ヨコハケ、底部外面にタテハケ、内面、底面にナデを施す。外面のB種ヨコハケとタテハケの境目に、沈線が認められる。

朝顔形埴輪（図 16 1～3）

1、2は口縁部である。1は大きく外反し、端部はヨコナデ調整により中くぼみの面をもつ。下方に肥厚する。内外面にタテハケの後にヨコハケを施す。2は口縁部内面にハケを施した後にヨコナデ調整することにより、端部に向かって下方より屈曲し外反する。端部はヨコナデにより中くぼみの面をもつ。外面にヨコハケ、内面にタテハケを施す。3は頸部片で、断面三角形状の突帯をもつ。外面にヨコハケ、内面にナデを施す。

形象埴輪（図 16 19 ～ 23）

18 は甲冑形埴輪の草摺部である。外面に線刻が認められる。内面はナデを施す。21、22 は蓋形埴輪である。21 は傘部で、断面台形状の突帯をもつ。外面にタテハケの後にナデ、内面にヨコハケの後にナデを施す。22 は立ち飾り部で、内外面に線刻が認められる。19、20、23 は器種不明である。19 は内外面にナデを施し、外面に線刻が認められる。20、23 は底部である。調整は、20 は内外面とも摩滅により不明である。23 の外面は摩滅のため不明。内面にナデを施す。

土師器（図 17 24、27）

24 は甕の口縁部である。直線的に端部まで伸びる。端部はヨコナデによる面をもつ。調整は外面に薄くハケメが残るが、ほぼ摩滅のため不明である。27 は羽釜の口縁部から鍔部である。口縁部外面は鋭く内へ屈曲し、端部内面は肥厚する。ほぼ水平の鍔をもつ。外面にヨコナデ、内面にナデを施す。それぞれ鎌倉時代に属する。

須恵器（図 17 29 ～ 31）

29 は壺もしくは甕の体部である。外面にハケ、内面にナデを施す。30 は甕の体部である。外面はタタキの後にナデを施し、内面に同心円当具痕が残る。31 は壺の体部の底部付近と思われる。外面にタタキの後にヨコナデ、内面にヘラケズリの後にヨコナデを施す。古墳時代に属する。

瓦器（図 17 25、26、28）

25、26 は椀で、口縁部で屈曲しゆるく外反する。2点とも沈線の位置から「大和型」である。25 は外面にユビオサエの後ナデ、内面にナデ、端部にヨコナデを施す。26 は外面をユビオサエのちヘラミガキ、内面はヘラミガキで仕上げる。28 は三足の足釜である。復元口径 19.0cm を測る。ほぼ水平の鍔をもつ。内外面ともにヨコナデを施す。それぞれ鎌倉時代に属する。

縄文土器（図 17 32）

32 は深鉢の口縁部である。内外ともナデ調整を行う。「滋賀里Ⅲ式」である。

石器（図 17　33）

33 はサヌカイト製の石錐である。長さ 6.0cm、幅 3.9cm、厚さ 1.0cm、重さ 23g を測る。

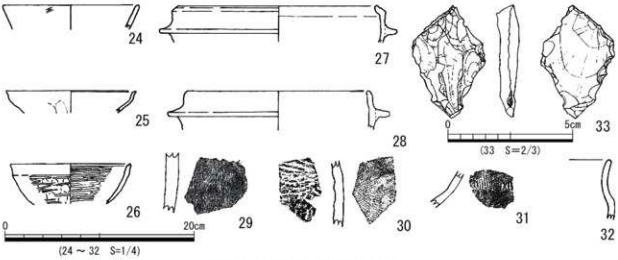


図 17　第 5 次調査出土遺物（2）

第6次調査（図 18）

円筒埴輪、朝顔形埴輪、不明形象埴輪、土師器、瓦器、石器などが出土した。

円筒埴輪（2～7）

2～7は円筒埴輪の体部である。2、3、5は突出度の高い断面M字形状の突帯をもつ。2は外面にヨコナデ、内面にナデを施す。須恵質である。3は外面にヨコナデ、ヨコハケ、内面にヨコハケを施す。円形透かし孔が認められる。5は外面にタテハケの後にC種ヨコハケ、内面にユビナデを施す。円形透かし孔が認められる。4、6、7は突出度の低い断面M字形状の突帯をもつ。4は外面にB種ヨコハケ、ヨコナデ、内面にタテハケの後にナデを施す。円形透かし孔が認められ、黒斑が残る。6は外面にタテハケのちB種ヨコハケ、ヨコナデ、内面にナデを施す。7は外面にB種ヨコハケ、ヨコナデ、内面にヨコハケを施す。円形透かし孔が認められる。

朝顔形埴輪（1）

1は頸部片である。突出度の高い断面台形状の突帯をもつ。内面に右斜上方向のハケを施した後にヨコナデ調整を施す。

形象埴輪（8～ 10）

8～ 10 は器種不明の形象埴輪である。8、10 は直線的に体部へ伸びる底部である。内外面とも摩滅により調整は不明である。10 の内外面とも摩滅しているが、底部内面はナデによるくぼみができる。底面は未調整である。9は板状の破片である。内外面にハケメ、端面にヨコナデを施す。

弥生土器（11）

11 は甕の底部である。外面をタタキ、底面をナデで調整する。内面は摩滅のため調整不明である。弥生時代後期に属する。

土師器皿（12、13）

12 の器高は低く、全体の厚みが 3mm 程度である。内外面ともにナデ、口縁端部はヨコナデで仕上げる。13 は底部が 4mm 程度、口縁部が 7mm 程度の厚みをもつ。体部外面に、ヨコナデによる段がつく。体部外面～底部にユビオサエのちナデ、内面はナデを施す。口縁部はヨコナデで仕上げる。それぞれ鎌倉時代に属する。

瓦器椀（14）

14 は内外とも摩滅のため暗文は不明瞭である。沈線が口縁端部付近にあることから「大和型」である。体部外面はユビオサエが残る。鎌倉時代に属する。

石器（15）

15 はサヌカイトの剥片である。片面にのみ細部調整が認められる。削器、もしくは石匙の未成品の可能性がある。

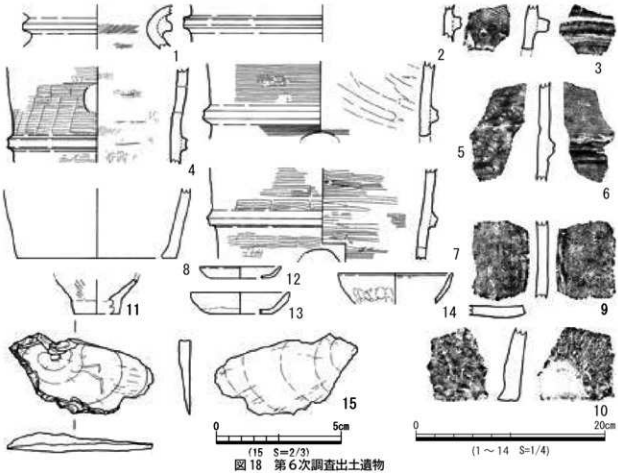


図18　第６次調査出土遺物

5．まとめ

これまでの九僧塚古墳の周辺の調査から本来の規模は一辺 35 m程度に復元できる。東側は１次調査の結果から、南北の地割に沿って墳丘裾を復元でき、東側の墳丘裾部の標高は 41.8 ～ 41.9 mである。南側も耕作土直下で地山が検出されることから、現状の墳丘裾と大きく乖離することは考えにくい。４～６次調査として行った西側及び北側隣接地では、現状の墳丘裾から3～4m離れた位置で本来の墳丘裾が検出された。ただし、調査後の耕作への影響を最小限にとどめるため、掘り下げる幅を最小限にし、また、トレンチの方向についても耕作の方向に直交する方向としたため、様々な課題は残されている。周濠が巡るのかについても西側では墳丘と反対側の傾斜面が検出されていないため不明のままである。北側で検出した傾斜面の砂層も 6-2 トレンチでは検出されておらず、そのつながりは不明である。また、墳丘裾部の標高も墳丘の西側は 41.5 m～ 41.7 m、南側は 42.0 m～ 42.1 m、東側は 41.8 ～ 41.9 m、北側は 41.4 mと均一ではない。後世の開墾の影響もみられるが、明らかに南側は他の三辺より高くなっている。本来の地形が南から北へ傾斜する地形であるため、その地形によるものとも考えられるが、付属する施設があった可能性も考慮しなければならない。

九僧塚古墳の調査では縄文土器・石器、弥生土器が出土しており、古墳が築造される以前の様子を窺い知ることもできた。墳丘盛土下には当該時期の遺構も存在する可能性がある。

九僧塚古墳の名の由来として、９人の僧が葬られたという伝承があるが、中国製の青磁や布目圧痕を有する瓦の出土は約 300 m南西に位置する古代寺院の長林寺との関係が注目される。

令和元年度も第７次調査を行うが、小さな調査も回数を重ねることで成果を引き出していきたい。

表1　第２次調査　掲載遺物一覧

挿図番号	図版番号	遺物名	特徴	出土位置	遺物台帳ラベル番号
13-1	2-1	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高：5.9cm【色調】橙（5YR7/6）【胎土】径 1mm の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】口縁部片【調整】外面：ハケメ（9 条 /cm）、ヨコナデ、縦刻　内面：ハケメ（13 条 /1.7cm）　端面：ヨコナデのちハケ、ヨコナデ	第１トレンチ 土壙１	KKS-2 009
13-2	2-2	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：4.0cm【色調】灰（N4/0）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面：ヨコハケ（5 条 /cm）　内面：タテハケ（6 条 /cm）	第１トレンチ 西たちわり 南落ち	KKS-2 015
13-3	2-3	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：5.2cm【色調】にぶい橙（7.5YR7/4）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面：ヨコナデ、タテハケ（10 条 /cm）　内面：ユビオサエ、ナデ	第１トレンチ 西たちわり 南落ち	KKS-2 015
13-4	2-4	円筒埴輪 基底部	【法量】残存高:5.8cm【色調】橙（5YR6/6）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】基底部片【調整】外面：タテハケ（5 条 /cm）　内面：タテハケ（5 条 /cm）　底部：ナデ	第１トレンチ 西たちわり 南落ち	KKS-2 015
13-5	2-5	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：5.9cm【色調】にぶい橙（7.5YR7/4）【胎土】径 1mm 以下の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面：タテハケ（6 条 /cm）　内面：タテハケ（8 条 /cm）【備考】透かし孔（円形か）	第１トレンチ 西たちわり 南落ち	KKS-2 015
13-6	2-6	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：9.9cm【色調】橙（5YR6/6）【胎土】径 1mm の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面：B種ヨコハケ（8 条 /cm）、ヨコナデ　内面：ナデ、ユビオサエ、ケズリ	第１トレンチ 南端	KKS-2 012
13-7	2-7	円筒埴輪 基底部	【法量】残存高:12.0cm【色調】橙（5YR7/6）【胎土】径 1mm 以下の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】基底部片【調整】外面：ヨコハケ（7 条 /cm）、ヨコナデ、タテハケ（5 条 /cm）、ユビオサエ、ナデ　内面：ユビオサエ、ナデ　底部：植物圧痕（木の枝か）	第１トレンチ 西たちわり 南落ち	KKS-2 015
13-8	2-8	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】残存高:3.2cm【色調】橙（7.5YR7/6）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】口縁部片【調整】外面：タテハケ（6 条 /cm）　内面：ヨコハケ（5 条 /cm）　口縁部：ヨコナデ	第１トレンチ 南落ち	KKS-2 020
13-9	3-9	短甲形埴輪	【法量】残存長:6.8cm　残存幅:7.5cm【色調】橙（7.5YR7/6）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ナデ、縦刻　内面：ナデ、ユビオサエ	第１トレンチ 西たちわり 南落ち	KKS-2 015
13-10	3-10	盾形埴輪	【法量】残存高：5.8cm　残存幅：5.0cm　残存厚：1.7cm【色調】にぶい赤褐（2.5YR5/4）【胎土】径 1mm 以下の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ナデ、縦刻　内面：ナデ【備考】顔料（ベンガラ朱）	第１トレンチ 西たちわり 南落ち	KKS-2 015
13-11	3-11	人物埴輪	【法量】残存長：7.7cm　残存幅：7.9cm　残存厚：1.0 ～ 1.7cm【色調】橙（5YR6/8）【胎土】径 1mm 以下の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ハケメ（8 条 /cm）　内面：ユビオサエ、ナデ	第１トレンチ 西たちわり 南落ち	KKS-2 015
13-12	3-12	青磁 碗	【法量】残存高:4.1cm【色調】オリーブ灰（5GY6/1）【胎土】密【焼成】良好【残存率】口縁部片【調整】外面：蓮弁文　【備考】龍泉窯系	第１トレンチ 西たちわり 南落ち	KKS-2 015
13-13	3-13	石製品 砥	【法量】残存長：6.2cm　残存幅：5.4cm　残存厚：0.9 ～ 1.3cm　重：36.8g【残存率】破片	第１トレンチ 土壙１	KKS-2 009
13-14	3-14	瓦 平瓦	【法量】残存長:8.4cm　残存幅:8.6cm　残存厚:2.1 ～ 2.4cm【色調】灰黄（2.5Y7/2）【胎土】径 1mm 長石【焼成】良好【残存率】破片【調整】外面:縄目タタキ　内面:布目圧痕（6 条 /cm）のちナデ　端部:ヘラ切り	第１トレンチ	KKS-2 002

表2　第3次調査　掲載遺物一覧

挿図番号	図版番号	遺物名	特徴	出土位置	遺物台帳ラベル番号
14-1	6-1	円筒埴輪 口縁部	【法量】残存高:3.6cm【色調】橙（5YR/6）【胎土】径 1mm の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】口縁部片【調整】外面：ヨコナデ　内面：ハケメ（6 条 /1.7cm）　端部：ヨコナデ	第２トレンチ	KKS-3 003
14-2	6-2	円筒埴輪 体部	【法量】残存高:7.0cm【色調】灰オリーブ（5Y5/2）【胎土】径 1mm の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面：ヨコナデ、B 種ヨコハケ（5 条 /cm）　内面：ユビオサエ、ナデ	第１トレンチ 有たちわり	KKS-3 002
14-3	6-3	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：9.5cm【色調】外：にぶい黄橙（10YR6/3）　内：にぶい橙（7.5YR6/4）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面:B 種ヨコハケ（6 条 /cm）ヨコナデ　内面:ハケ（7 条 /cm）のちナデ【備考】布目圧痕残る	第１トレンチ	KKS-3 009
14-4	6-4	円筒埴輪 基底部	【法量】残存高：7.5cm【色調】にぶい橙（5YR6/4）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】基底部片【調整】外面：タテハケのちヨコハケ（10 条 /cm）　内面：タテハケ（10 条 /cm）	第１トレンチ	KKS-3 009
14-5	7-5	形象埴輪 不明	【法量】残存高：5.8cm【色調】橙（5YR6/6）【胎土】径 1mm の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面:摩滅（ナデか）　内面：摩滅（ナデか）	第１トレンチ 有たちわり	KKS-3 002
14-6	7-6	朝顔形埴輪 体部	【法量】残存高:7.4cm【色調】浅黄橙（10YR8/4）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面：摩滅　内面：摩滅	第３トレンチ	KKS-3 026
14-7	7-7	朝顔形埴輪 体部	【法量】残存高：6.0cm【色調】橙（5YR6/6）【胎土】径 1mm の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面：ヨコハケ（6 条 /cm）、ヨコナデ　内面：ナデ	第２トレンチ 有たちわり	KKS-3 006
14-8	7-8	形象埴輪 不明	【法量】残存高:3.4cm【色調】浅黄橙（2.5Y7/3）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ナデ　内面：未調整か	第２トレンチ	KKS-3 003
14-9	7-9	家形埴輪 壁か	【法量】残存高:8.2cm【色調】橙（5YR6/6）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ナデ　内面：ナデ	第１トレンチ	KKS-3 009
14-10	7-10	蓋形埴輪 立飾	【法量】残存高：3.2cm　残存幅：3.7cm　残存厚：1.4cm【色調】明赤褐（5YR5/6）【胎土】径 1mm の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：縦刷　内面：縦刷	第２トレンチ	KKS-3 003
14-11	7-11	形象埴輪 不明	【法量】残存長：12.4cm　残存幅：8.8cm　残存厚：2.6cm【色調】浅黄（2.5Y7/4）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ナデ　内面：ナデ	第１トレンチ 下段テラス土壙	KKS-3 032
14-12	7-12	土師器 高杯	【法量】底径：7.8cm　残存高：4.1cm【色調】橙（5YR7/6）【胎土】径 1mm の長石・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】7/10【調整】外面：ナデ（摩滅している）　内面：ナデ　端部：ヨコナデ	第２トレンチ	KKS-3 007

表3　第4次調査　掲載遺物一覧

挿図番号	図版番号	遺物名	特徴	出土位置	遺物台帳ラベル番号
15-1	10-1	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】復元口径：44.4cm　残存高：5.1cm【色調】橙（5YR6/6）【胎土】径 2mm 以下の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】口縁部 1/10【調整】外面：ハケメ（9 条 /cm）　内面：ハケメ（9 条 /cm）　端部：ヨコナデ	第２トレンチ 土層図・平面図	KKS-4 074
15-2	10-2	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】復元口径：39.7cm　残存高：4.1cm【色調】橙（5YR6/8）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】口縁部 1/10【調整】外面：ハケメ（11 条 /1.4cm）　内面：ハケメ（9 条 /cm）　端部：ヨコナデ	第１トレンチ 北たちわり 墳堀西	KKS-4 027
15-3	10-3	蓋形埴輪	【法量】残存長：14.6cm　残存幅：6.5cm　残存高：2.1cm【色調】橙（5Y7/6）【胎土】径 1mm 以下の石英・長石・クサリレキ・雲母【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】立ち飾りの一部【調整】外面:ハケメ（10 条 /cm）、縦刷　内面：ハケメ、縦刷　端部：ヘラ切り、ナデ	第１トレンチ 北たちわり 北壁	KKS-4 13
15-4	10-4	円筒埴輪 体部	【法量】残存高:3.3cm【色調】橙（5YR7/8）【胎土】径 1mm の長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面:摩滅　内面:摩滅【備考】内外面に赤色顔料付着、透かし孔	第３トレンチ	KKS-4 031
15-5	10-5	白磁 碗	【法量】復元口径：17.4cm　残存高：2.7cm【色調】灰白（5YR/1）【胎土】密【焼成】良好【残存率】口縁部 1/10【調整】外面:施釉　内面:施釉	第１トレンチ 北たちわり 墳堀西	KKS-4 024
15-6	10-6	瓦 平瓦	【法量】残存長：9.4cm　残存幅：5.1cm　残存厚：2.3cm【色調】灰白（2.5Y7/1）【胎土】密【焼成】良好【残存率】破片【調整】外面：縄目タタキ　内面：布目圧痕	第１トレンチ 北たちわり 墳堀西	KKS-4 024

表4　第5次調査　掲載遺物一覧

挿図番号	図版番号	遺物名	特徴	出土位置	遺物台帳ラベル番号
16-1	14-1	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】復元口径:36.6cm　残存高:5.5cm【色調】黒褐（10YR3/2）【胎土】径 3mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】口縁部片【調整】外面：タテハケのちヨコハケ（4 条 /cm）　内面：タテハケのちヨコハケ（4 条 /cm）　端部：ヨコナデ	第 4 トレンチ 西たちわり北	KKS-5 023
16-2	14-2	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】復元口径:30.0cm　残存高:3.85cm【色調】灰白（N7/0）【胎土】径 4mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】口縁部片【調整】外面：ヨコハケ（6 条 /cm）　内面：ヨコハケ（8 条 /cm）　端部：ヨコナデ、ヨコハケのちヨコナデ【備考】須恵質	第 1 トレンチ 北たちわり 拡張	KKS-5 009
16-3	14-3	朝顔形埴輪 口縁部	【法量】残存長:6.4cm　残存高:1.4cm【色調】橙（7.5YR6/8）【胎土】径 2mm 以下の石英・長石・クサリレキ【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ヨコナデ、ヨコハケ　内面：ナデ	第 4 トレンチ 西たちわり北	KKS-5 031
16-4	14-4	円筒埴輪 口縁部～体部	【法量】復元口径:19.0cm　残存高:13.7cm【色調】灰（N5/0）【胎土】径 3mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】口縁部片【調整】外面:B 種ヨコハケ（6 条 /cm）のち一部タテハケ　内面:ハケのちヨコナデ　端部：ハケのちヨコナデ	第 4 トレンチ 西たちわり北	KKS-5 023
16-5	15-5	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：3.9cm【色調】明赤褐（5YR5/8）【胎土】径 2mm 以下の石英【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：B 種ヨコハケ（4 条 /cm）　内面：ナデ【備考】円形透かし孔	第 1 トレンチ 北たちわり	KKS-5 009
16-6	14-6	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：5.5cm【色調】褐灰（7.5YR5/1）【胎土】径 1mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ヨコハケ（5 条 /cm）　内面：ハケのちナデ【備考】須恵質	第 4 トレンチ 西たちわり 東拡張	KKS-5 025
16-7	14-7	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：5.6cm【色調】灰（N6/0）【胎土】径 1mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ヨコハケ（5 条 /cm）、ヨコナデ　内面：ハケのちナデ【備考】須恵質	第 4 トレンチ 西たちわり北	KKS-5 030
16-8	15-8	円筒埴輪 体部	【法量】残存高:6.6cm【色調】橙（5YR6/8）【胎土】径 4mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：B 種ヨコハケ（5 条 /cm）、ヨコナデ　内面：ナデ【備考】円形透かし孔	第 4 トレンチ たちわり北 東拡張	KKS-5 34-2
16-9	15-9	円筒埴輪 体部	【法量】残存高:7.3cm【色調】浅黄（2.5Y7/4）【胎土】径 2mm 以下の石英・長石・クサリレキ【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ヨコハケ（4 条 /cm）、ヨコナデ　内面：ナデ	第 4 トレンチ たちわり北東 拡張	KKS-5 034
16-10	14-10	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：6.3cm【色調】褐（7.5YR7/4）【胎土】径 1mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ヨコハケ（10 条 /cm）　内面：ナデ【備考】透かし孔	第 4 トレンチ 西たちわり北	KKS-5 031
16-11	14-11	円筒埴輪 基底部	【法量】残存高：8.5cm【色調】褐（7.5YR7/4）【胎土】径 1mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ヨコハケ（9 条 /cm）　内面：ヨコハケ　端部：ヨコナデ、ナデ【備考】須恵質	第 4 トレンチ 西たちわり北	KKS-5 031
16-12	14-12	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：5.4cm【色調】灰（5Y5/1）【胎土】径 3mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：B 種ヨコハケ（4 条 /cm）、ヨコナデ、タテハケ　内面：タテハケ（4 条 /cm）【備考】須恵質	第 4 トレンチ 西たちわり 東北拡張	KKS-5 027
16-13	15-13	円筒埴輪 体部	【法量】残存高：11.5cm【色調】褐灰（10YR6/1）【胎土】径 2mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：B 種ヨコハケ（10 条 /cm）、ヨコハケ　内面：ナデ【備考】須恵質	第 4 トレンチ 西たちわり 東拡張	KKS-5 025
16-14	15-14	円筒埴輪 基底部	【法量】残存高:4.4cm【色調】橙（5YR6/8）【胎土】径 4mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：タテハケ（6 条 /cm）　内面：ナデ　底面：ナデ【備考】底面に線刻あり	第 1 トレンチ 北たちわり 拡張	KKS-5 009
16-15	14-15	円筒埴輪 基底部	【法量】残存高：5.2cm【色調】にぶい赤褐（5YR5/3）【胎土】径 3mm 以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：タテハケ（6 条 /cm）、ヨコハケ、ヨコナデ　内面：ナデ、ヨコナデ　底面：ナデ	第 1 トレンチ 北たちわり拡張	KKS-5 009
16-16	15-16	円筒埴輪 基底部	【法量】復元底径:20.2cm　残存高:8.5cm【色調】黄橙（7.5YR7/8）【胎土】径 4mm 以下の石英・長石・クサリレキ【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：B 種ヨコハケ（6 条 /cm）、タテハケ（6 条 /cm）　内面：ナデ【備考】体部ヨコハケの上に、基底部のタテハケが一部かかる	第 1 トレンチ 北たちわり拡張	KKS-5 009

16-17	15-17	円筒埴輪 基底部	【法量】復元底径:23.4cm　残存高:10.0cm【色調】橙（7.5YR6/8）【胎土】径3mm以下の石英・長石【焼成】やや不良【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：B種ヨコハケ（6条/cm）、タテハケ（6条/cm）内面：ナデ【備考】沈線あり（工具の止め痕か）	第4トレンチ 西たちわり 東北拡張	KKS-5 027
16-18	16-18	甲冑形埴輪 草摺部	【法量】残存高:6.9cm【色調】淡黄（2.5Y8/3）【胎土】径3mm以下の石英・長石・クサリレキ【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：線刻　内面：ナデ	第1トレンチ 北たちわり	KKS-5 006
16-19	16-19	形象埴輪 不明	【法量】残存長:5.6cm　残存高:1.2cm【色調】明褐（7.5YR5/6）【胎土】径1mm以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ナデ、線刻　内面：ナデ	第4トレンチ 西たちわり 北東拡張	KKS-5 034
16-20	15-20	形象埴輪 不明	【法量】残存長：5.1cm　残存高：2.0cm【色調】橙（5YR7/8）【胎土】径1mm以下の石英・長石・クサリレキ【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：摩滅　内面：摩滅	第4トレンチ 西たちわり 北東拡張	KKS-5 034
16-21	16-21	蓋形埴輪	【法量】残存高：5.5cm【色調】にぶい橙（7.5YR6/4）【胎土】径1mm以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：タテハケ（14条/cm）のちナデ、ヨコナデ　内面：ハケのちナデ	第4トレンチ 西たちわり北	KKS-5 030
16-22	16-22	蓋形埴輪 立ち飾り部分	【法量】残存高:6.8cm【色調】灰白（5YR7/2）【胎土】径3mm以下の石英・長石・クサリレキ【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：線刻　内面：線刻	第4トレンチ 西たちわり 東北拡張	KKS-5 027
16-23	15-23	形象埴輪 不明	【法量】残存高：8.4cm【色調】明黄褐（10YR6/6）【胎土】径1mm以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：摩滅　内面：ナデ	第4トレンチ 西たちわり 東拡張	KKS-5 025
17-24	16-24	土師器 甕	【法量】復元口径:14.0cm　残存高:2.6cm【色調】黒褐（2.5Y3/1）【胎土】径2mm以下の石英・長石・雲母・角閃石【焼成】良好【残存率】破片【調整】外面：ハケメ　内面：摩滅　端部：ヨコナデ	第4トレンチ 西たちわり北	KKS-5 023
17-25	16-25	瓦器 椀	【法量】復元口径:13.6cm　残存高:2.4cm【色調】外面:灰白（2.5Y8/1）内面:灰白（5Y8/1）【胎土】径1mm以下のクサリレキ・雲母【焼成】やや不良【残存率】破片【調整】外面：ヨコナデ、ユビオサエのちナデ　内面：ナデ　端部：ヨコナデ、沈線【備考】大和型	第1トレンチ 北たちわり 拡張	KKS-5 009
17-26	16-26	瓦器 椀	【法量】復元口径：12.4cm　残存高：4.2cm【色調】外面：灰白（N3/）内面：灰（N4/）【胎土】密【焼成】良好【残存率】1/5【調整】外面：ユビオサエのちヘラミガキ　内面：ヘラミガキ　端部：ヨコナデ沈線【備考】大和型	第4トレンチ 西たちわり 東拡張	KKS-5 025
17-27	16-27	土師器 羽釜	【法量】復元口径:20.4cm　残存高:4.0cm【色調】外面:灰白（2.5Y8/2）内面：淡黄（2.5Y8/3）【胎土】径2mm以下の石英・雲母【焼成】良好【残存率】破片【調整】外面：ヨコナデ　内面：ナデ　端部：ヨコナデ	第1トレンチ 北たちわり 拡張	KKS-5 009
17-28	16-28	瓦器 羽釜	【法量】復元口径:19.0cm　残存高:4.15cm【色調】黒（N1.5/）【胎土】径2mm以下の石英・雲母【焼成】良好【残存率】破片【調整】外面：ヨコナデ　内面：ナデ　端部：ヨコナデ	第1トレンチ 北たちわり	KKS-5 006
17-29	16-29	須恵器 壺または甕	【法量】残存高:6.4cm【色調】灰白（N7/）【胎土】径1mm以下の石英【焼成】良好【残存率】破片【調整】外面：ハケメ（7条/cm）　内面：ナデ	第4トレンチ 西たちわり北	KKS-5 023
17-30	16-30	須恵器 甕	【法量】残存高：7.1cm【色調】灰（N6/）【胎土】径1mm以下の石英・長石【焼成】良好【残存率】破片【調整】外面:タタキのちナデ　内面:同心円当て具痕	第4トレンチ 西たちわり北	KKS-5 030
17-31	16-31	須恵器 壺	【法量】残存高:3.6cm【色調】灰（N6/）【胎土】径1mm以下の石英【焼成】良好【残存率】破片【調整】外面：タタキのちヨコナデ　内面：ヨコナデ、ヘラケズリのちナデ	第1トレンチ 北たちわり 拡張	KKS-5 009
17-32	16-32	縄文土器 深鉢	【法量】残存高：6.3cm【色調】外面：10YR3/2黒褐　内面：にぶい黄褐（10YR5/4）【胎土】径1mm以下の石英・長石【焼成】良好【残存率】口縁部片【調整】外面：ナデ　内面：ナデ	第2トレンチ 南たちわり	KKS-5 006
17-33	16-33	石器 石錘	【法量】長：6.0cm　幅：3.9cm　厚：1.0　重：23g 【備考】細部調整あり	第4トレンチ 西たちわり北	KKS-5 0

表5　第6次調査　掲載遺物一覧

挿図番号	図版番号	遺物名	特徴	出土位置	遺物台帳ラベル番号
18-1	19-1	朔顔形埴輪頭部	【法量】残存高：4.6cm【色調】外面：にぶい赤褐（2.5YR4/3）内面：灰（N4/0）【胎土】径4mm以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】頭部片【調整】外面：ヨコナデ　内面：ハケメ（9条/cm）ヨコナデ	第1トレンチたちわり南	KKS-6 019
18-2	19-2	円筒埴輪体部	【法量】残存高：4.0cm【色調】灰（N4/0）【胎土】径3mm以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ヨコナデ　内面：ナデ【備考】須恵質	第1トレンチたちわり北	KKS-6 018
18-3	19-3	円筒埴輪体部	【法量】残存高：4.7cm【色調】淡黄（2.5YR/3）【胎土】径3mm以下の石英・クサリレキ【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ヨコナデ、ヨコハケ（5条/0.7cm）内面：ヨコハケ（5条/cm）【備考】円形透かし孔	第3トレンチたちわり	KKS-6 007
18-4	19-4	円筒埴輪体部	【法量】残存高：10.3cm【色調】外面：にぶい褐（7.5YR5/4）【胎土】径3mm以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】あり【残存率】体部片【調整】外面：タテハケのちB種ヨコハケ（5条/cm）、ヨコナデ　内面：タテハケ（5条/cm）のちナデ【備考】円形透かし孔	第1トレンチたちわり南	KKS-6 019
18-5	19-5	円筒埴輪体部	【法量】残存高：7.7cm【色調】にぶい黄橙（10YR7/3）【胎土】径2mm以下の石英・長石・クサリレキ【焼成】並【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面：タテハケのちC種ヨコハケ（8条/cm）、ヨコナデ　内面：ユビナデ	第1トレンチたちわり北	KKS-6 018
18-6	19-6	円筒埴輪体部	【法量】残存高：10.5cm【色調】外面：明褐灰（7.5YR7/2）内面：10YR7/6明黄褐【胎土】径2mm以下の石英・赤色鉱物【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：タテハケのちB種ヨコハケ（6条/cm）、ヨコナデ　内面：ナデ	第1トレンチたちわり南	KKS-6 022
18-7	19-7	円筒埴輪体部	【法量】残存高：10.0cm【色調】外面：にぶい赤褐（5YR5/4）内面：橙（5YR6/6）【胎土】径3mm以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】体部片【調整】外面：B種ヨコハケ（5条/cm）、ヨコナデ　内面：B種ヨコハケ（5条/cm）	第1トレンチたちわり南	KKS-6 022
18-8	19-8	形象埴輪不明	【法量】残存高：7.4cm【色調】橙（5YR7/8）【胎土】径3mm以下の石英・長石・クサリレキ【焼成】やや不良【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：摩滅　内面：摩滅	第3トレンチたちわり南	KKS-6 023
18-9	19-9	形象埴輪不明	【法量】残存長：8.2cm　残存幅：5.9cm　残存厚：1.15cm【色調】灰（N4/0）【胎土】径2mm以下の石英・長石【焼成】良好【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：ハケメ（10条/cm）内面：ハケメ（10条/cm）【備考】須恵質	第1トレンチたちわり北	KKS-6 018
18-10	19-10	形象埴輪不明	【法量】残存高：7.8cm【色調】橙（5YR7/8）【胎土】径3mm以下の石英・長石・クサリレキ【焼成】やや不良【黒斑】なし【残存率】破片【調整】外面：摩滅　内面：ナデ、ほぼ摩滅　底部：未調整	第1トレンチたちわり南	KKS-6 022
18-11	20-11	弥生土器壺または甕	【法量】復元底径：4.5cm　残存高：3.75cm【色調】外面：灰白（5Y7/2）内面：10YR6/4にぶい黄橙【胎土】径2mm以下のクサリレキ・雲母【焼成】良好【残存率】底部1/6【調整】外面：タタキ　内面：摩滅　底面：ナデ	たちわり	KKS-6 006
18-12	20-12	土師器皿	【法量】復元口径：8.5cm　復元底径：4.4cm　高：1.2cm【色調】浅黄（2.5Y7/3）【胎土】径1mm以下の石英・長石・雲母【焼成】良好【残存率】1/6【調整】外面：ナデ　内面：ヨコナデ、ナデ　端部：ヨコナデ	第3トレンチたちわり南	KKS-6 023
18-13	20-13	土師器皿	【法量】復元口径：10.2cm　復元底径：6.4cm　高：2.3cm【色調】外面：浅黄（2.5Y8/3）内面：にぶい黄橙（10YR7/4）【胎土】密【焼成】並【残存率】1/6【調整】外面：ヨコナデ、ユビオサエのちナデ　内面：ヨコナデ、ナデ　端部：ヨコナデ	第3トレンチたちわり	KKS-6 023
18-14	20-14	瓦器椀	【法量】復元口径：12.0cm　残存高：3.2cm【色調】灰（N4/0）【胎土】密【焼成】良好【残存率】口縁部片【調整】外面：ユビオサエのちナデ　内面：ヘラミガキ（ほぼ摩滅）　端部：ヨコナデ【備考】大和型	第3トレンチたちわり	KKS-6 006
18-15	20-15	石器剥片	【法量】長：5.7cm　短：3.0cm　厚：0.5cm　重：10g【備考】削器もしくは石匙の未成品の可能性あり。片面のみ細部調整が行われている。	第1トレンチたちわり北	KKS-6 018

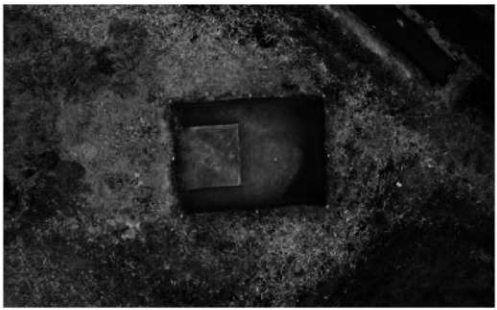
図　版

①調査地全景（西から）

②調査前風景（南西から）

①第２次調査
調査区全景
（垂直）

②第２次調査
第１トレンチ
（垂直）



③第２次調査
第２トレンチ
（垂直）

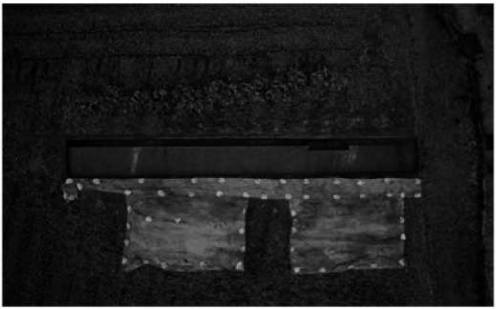
①第３次調査
調査区全景
（垂直）

②第３次調査
第１トレンチ
（垂直）

③第３次調査
第２トレンチ
（垂直）

①第３次調査
第３トレンチ
（垂直）

②第４次調査
調査区全景
（南から）



③第４次調査
第１トレンチ
（垂直）

写真図版5　遺構

①第４次調査
第２トレンチ
（垂直）

②第４次調査
第３トレンチ
（垂直）

③第４次調査　第１トレンチ墳丘裾

①第５次調査
調査区全景
（垂直）

②第５次調査
第１トレンチ
（垂直）

③第５次調査
第２トレンチ
（垂直）

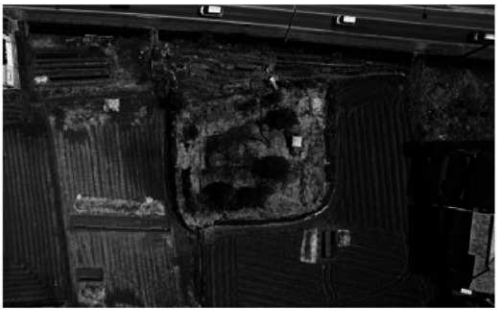
①第５次調査
第３トレンチ
（垂直）

②第５次調査
第４トレンチ
（垂直）

③第５次調査　第１トレンチ墳丘裾

④第５次調査　第４トレンチ墳丘裾

①第５次調査
第４トレンチ
葺石出土状況



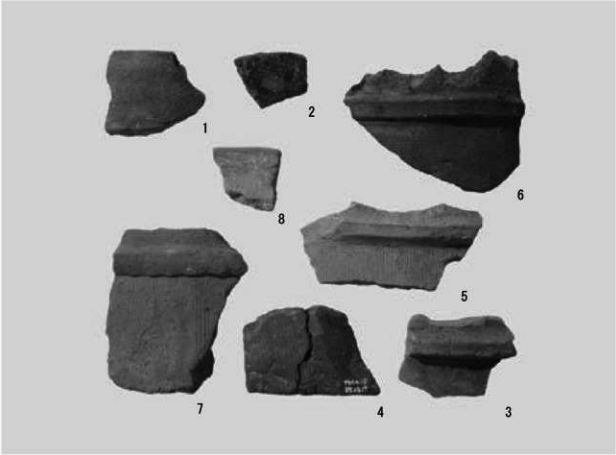
②第６次調査
調査区全景
（垂直）

③第６次調査　第１トレンチ墳丘裾

①第6次調査
第1トレンチ
（垂直）

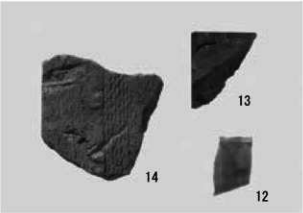
②第6次調査
第2トレンチ
（垂直）

③第6次調査
第3トレンチ
（垂直）

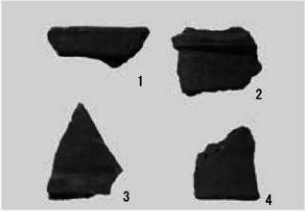


①第２次調査出土遺物（１）

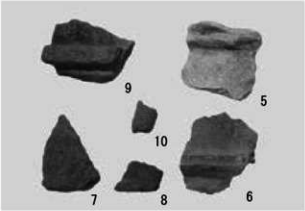
②第２次調査出土遺物（２）



③第２次調査出土遺物（３）



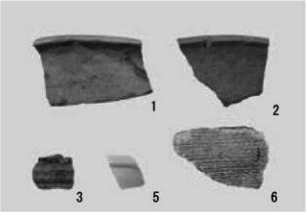
④第３次調査出土遺物（１）



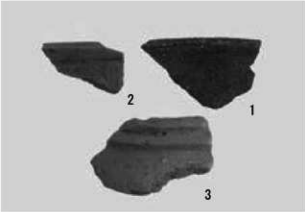
⑤第３次調査出土遺物（２）

①第３次調査出土遺物（３）

②第３次調査出土遺物（４）

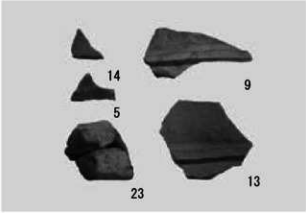


③第４次調査出土遺物（１）

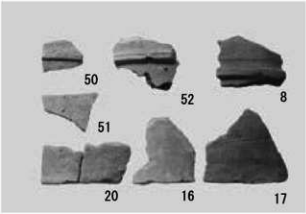


④第５次調査出土遺物（１）

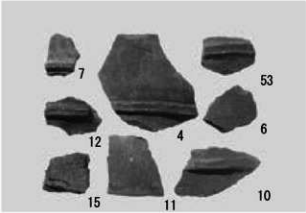
⑤第４次出土遺物（２）



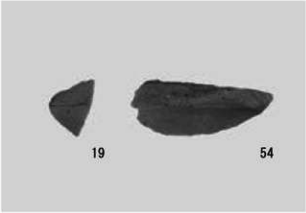
①第５次調査出土遺物（２）



②第５次調査出土遺物（３）

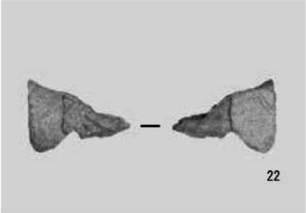


③第５次調査出土遺物（４）

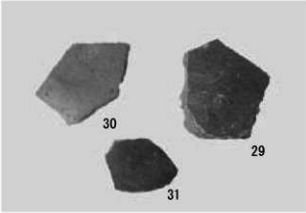


④第５次調査出土遺物（５）

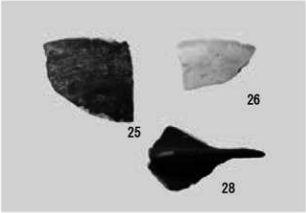
⑤第５次調査出土遺物（６）



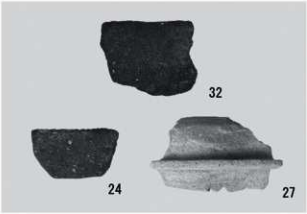
⑥第５次調査出土遺物（７）



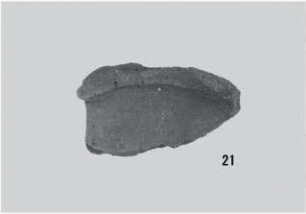
⑦第５次調査出土遺物（８）



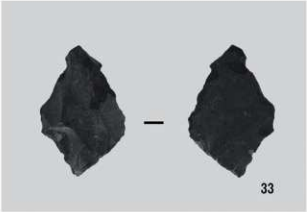
⑧第５次調査出土遺物（９）



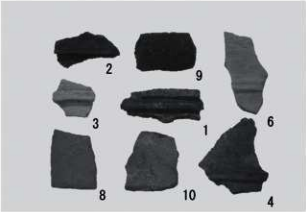
①第５次調査出土遺物(10)



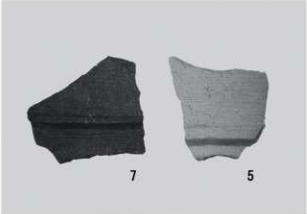
②第５次調査出土遺物(11)



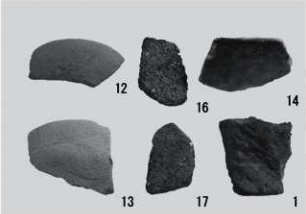
③第５次調査出土遺物(12)



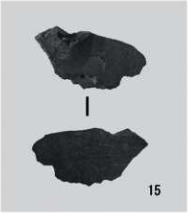
④第６次調査出土遺物(１)



⑤第６次調査出土遺物(２)



⑥第６次調査出土遺物(３)



⑦第６次調査出土遺物(４)

⑧第６次調査出土遺物(５)